

Oracle® Fabric Manager 5.0.0 コマンドリ ファレンス



Part No: E79624-01
2016 年 9 月

Part No: E79624-01

Copyright © 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。

目次

このドキュメントの使用方法	11
製品ドキュメントライブラリ	11
フィードバック	11
CLI コマンドの使用	13
コマンドの概要	13
コマンド履歴	14
ワイルドカード	14
▼ CLI へのログイン	14
ユーザーと役割の構成	17
domain-group-mapping	18
構文	18
オプション	18
resource-domain	19
構文	19
オプション	21
例: リソースドメインの作成	21
role-group-mapping	22
構文	22
オプション	22
例: 役割グループマッピングの追加	23
user-role	23
構文	23
オプション	24
例: ユーザーに割り当てられた役割の変更	24
管理対象デバイスの構成	25
fabric-interconnect	25
構文	25

オプション	30
例: Fabric Interconnect の追加	32
oracle-infiniband-switch	33
構文	33
オプション	35
例: IB スイッチの追加	36
sdn-controller	37
構文	37
オプション	38
IB ファブリックの構成	39
logical-network	39
構文	39
partition	40
構文	40
オプション	41
例	42
sm-group	42
構文	42
オプション	44
例: SM グループの作成	44
ネットワーククラウドの構成	45
ethernet-lag	46
構文	46
オプション	47
例: LAG の構成	48
ethernet-port	48
構文	48
mac-based-qos	49
構文	49
network-cloud	49
構文	49
オプション	51
例: ネットワーククラウドの追加	52
例: ネットワーククラウドへの Ethernet ポートの追加	52
例: ネットワーククラウドへの HA プリファレンスの追加	52
例: ネットワーククラウド情報の表示	52
例: Ethernet ポート情報の表示	53

例: ネットワーククラウドの削除	53
例: ネットワーククラウドからの Ethernet ポートの削除	53
network-qos	54
構文	54
public-cloud	54
構文	54
オプション	56
例: パブリッククラウドの追加	56
例: パブリッククラウドの有効化	56
例: パブリッククラウドへのアップリンクの追加	57
例: パブリッククラウドへの許可される VLAN 範囲の追加	57
例: パブリッククラウドからのアップリンクの削除	57
例: パブリッククラウドの HA プリファレンスの設定	57
例: パブリッククラウド情報の表示	57
pvi-cloud	58
構文	58
オプション	59
例: PVI クラウドの追加	59
例: PVI クラウドへのファブリックデバイスの追加	59
例: PVI クラウドの有効化	60
例: PVI クラウドの無効化	60
例: PVI クラウド情報の表示	60
例: PVI クラウドからのファブリックデバイスの削除	60
san-qos	60
構文	60
vnic	61
構文	61
オプション	62
例: 基本的な vNIC の構成	64
例: vNIC の削除	64
 ストレージクラウドの構成	 65
storage-cloud	65
構文	66
オプション	66
例: ストレージクラウドの追加	67
例: ストレージクラウドへのオプションの追加	67
例: ストレージクラウドへのポートの追加	67
例: ストレージクラウドの HA ポートプリファレンスの設定	67

例: ストレージクラウドのプロパティの表示	68
例: ストレージクラウドからの FC ポートの削除	68
fc-port	68
構文	68
オプション	69
vhba	69
構文	69
オプション	70
例: 基本的な vHBA の構成	70
例: vHBA 情報の表示	71
例: vHBA の削除	71
I/O テンプレートの構成	73
io-template	73
構文	73
オプション	75
例: I/O テンプレートの作成	77
例: I/O テンプレートの更新	77
例: I/O テンプレートへのストレージリソースの追加	77
デフォルトゲートウェイおよび I/O プロファイルの構成	79
default-gateway	79
構文	80
オプション	80
例: デフォルトゲートウェイの作成	80
io-profile	81
構文	81
オプション	82
例: I/O プロファイルの作成	83
例: I/O プロファイルオプションの更新	83
例: I/O プロファイルのサーバーへの接続	83
例: I/O プロファイルの vNIC の表示	83
例: I/O プロファイルの削除	84
サーバーの構成	85
physical-server	85
オプション	86
例: I/O プロファイルへのサーバーの接続	87
server-group	87

構文	87
オプション	88
例: サーバグループへのサーバーの追加	88
system	88
構文	89
オプション	89
ブートプロファイルの構成	91
san-boot-profile	91
構文	91
オプション	92
例: SAN ブートプロファイルの作成	92
例: SAN ブートプロファイルの表示	92
例: SAN ブートプロファイルの削除	93
iscsi-boot-profile	93
構文	93
オプション	94
例: iSCSI ブートプロファイルオプションの設定	95
例: iSCSI ブートプロファイルの表示	95
例: iSCSI ブートプロファイルの削除	96
プラグインの追加	97
system	97
構文	97
オプション	98
アラームの表示	99
alarm	99
構文	99
例: アラームの表示およびフィルタリング	100
job-status	100
構文	100
例: スケジュール済みジョブのステータスの表示	101
Oracle Fabric Manager の保守	103
schedule	103
構文	104
オプション	105

例: 日次バックアップのスケジュール	105
system	105
構文	106
オプション	107
例: Oracle Fabric Manager のバックアップ	107
 用語集	 109
 索引	 115

このドキュメントの使用方法

- **概要** – Oracle Fabric Manager 5.0.0 ソフトウェアのコマンドの説明、構文、および例を提供します。
- **対象読者** – 上級システムおよびネットワーク管理者。
- **必要な知識** – ネットワーク、ソフトウェア、およびハードウェア構成の高度な経験。

製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは http://docs.oracle.com/cd/E64523_01/index.html で入手可能です。

フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

CLI コマンドの使用

これらのトピックでは、Oracle Fabric Manager [CLI](#)、その要素、CLI コマンドの使用法、および Oracle Fabric Manager CLI へのログイン方法について説明します。概念と手順の詳細については、[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)を参照してください。

- [13 ページの「コマンドの概要」](#)
- [14 ページの「コマンド履歴」](#)
- [14 ページの「ワイルドカード」](#)
- [14 ページの「CLI へのログイン」](#)

コマンドの概要

Oracle Fabric Manager CLI のコマンドを形成するには、最初の語 (通常は、show、add、remove、set などの動詞) に続き、その語または動詞が作用する対象、さらに、コマンドを詳細に指定するために必要なオプションの引数を使用します。例:

```
show physical-server montana vnics
```

このコマンドは、montana という名前の物理サーバーに定義されているすべての vNIC を返します。

CLI には、コマンド行の各場所で、可能性のあるコマンド、サブコマンド、およびオプションを通知するコマンド補完機能が含まれています。次の種類のコマンド補完を使用できます。

- 明確なエントリを補完するには、Tab キーを押します。
エントリが明確である場合、CLI はユーザーが入力し始めたコマンドまたはサブコマンドを補完します。例:

```
show system <Tab>
```

- 任意の時点で、有効な補完を表示するには、Tab キーを押します。
コマンド補完機能は状況に依存しており、ユーザーが補完を要求したコマンド内の場所で CLI が有効と判断したものを常に表示します。

コマンド履歴

CLI は、現在および過去のセッション中に入力したコマンドの履歴を保持します。

現在のセッション中に発行したコマンドの場合は、上矢印キーと下矢印キーを使用してコマンド履歴をスクロールして、探している特定のコマンドを見つけます。再実行 (または編集してから実行) したいコマンドが見つかったら、Enter キーを押します。

ワイルドカード

CLI のほとんどの show コマンドでは、アスタリスク (*) ワイルドカード文字を使用して一連のオブジェクトを選択でき、ワイルドカードによって出力の表示を制御できます。ワイルドカードを使った命令には大文字と小文字の区別があるため、ワイルドカード項目は正しく入力するようにしてください。たとえば、show vnic V* を発行した場合、vnic1 や vnic2 という名前の vNIC は表示されません。show vnic v* を発行した場合は、これらの vNIC が表示されます。

注記 - すべての show コマンドがワイルドカードをサポートしているわけではありません (たとえば、LAG および VLAN では LAG 名または VLAN 番号の選択でワイルドカードをサポートしていません)。

例:

```
[OFM] show vnic v*
```

ワイルドカード文字は、v で始まる名前文字列内の文字を表します。このコマンドの結果は、最初の文字として v を持つすべての vNIC のリストになります。例:

```
[OFM] show vhma *.*test*
```

最初のワイルドカードは名前全体を表し、2 番目と 3 番目のワイルドカードは個々の文字を表します。このコマンドの結果は、名前に test という文字列を含む、すべての I/O プロファイル上のすべての vHBA のリストになります。

▼ CLI へのログイン

セキュアシェル (SSH) と、自分のアカウントまたはデフォルトアカウントを使用して、CLI で Oracle Fabric Manager にログインできます。ログインすると、Oracle Fabric Manager からアクティブに構成または管理を行なっているかぎり、セッションはアクティブのまま維持されます。デフォルト値では、セッションはアクティビティのな

い状態が 30 分続くとタイムアウトしますが、ログアウトされる前に警告メッセージが表示されます。

1. **Oracle Fabric Manager GUI にログインするときと同じユーザー名を使用してログインします。**

例:

```
$ ssh root@server1234
root@server1234's password:
```

Oracle Fabric Manager ハードウェアへのログインの詳細については、[Oracle Fabric Manager 5.0.0 インストールガイド](#)を参照してください。

2. **パスワードを入力します。**

```
Last login: Wed Jun  8 08:40:29 2016 from dhcp-example21-7f1-west-15-132-179-104.usdhcp.
example.com
```

3. **Oracle Fabric Manager CLI を起動します。**

```
# /opt/xsigo/xms/bin/ofmcli
root's Password:
```

4. **パスワードを入力し、Enter キーを押します。**

```
      Welcome to Oracle Fabric Manager
Copyright (C) 2010-2016 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
      Do '<Tab>' for help on available commands
[OFM]
```

ヒント - ログインしたあと、`/opt/xsigo/xms/bin/ofmcli -help` と入力するとヘルプを表示できます。

ユーザーと役割の構成

これらのトピックでは、CLI を使用してユーザー認証の管理、および役割とグループの割り当てを行う方法について説明します。

- ドメイングループマッピング – 外部 [IMS](#) 内のグループを Oracle Fabric Manager 内の [ドメイン](#) にリンクします。
- リソースドメイン – 物理サーバー、[ファブリック](#) デバイスまたは I/O モジュール、ネットワーク接続、ストレージ接続、およびパーティションが含まれます。
- 役割グループマッピング – ユーザーのグループに適切な権限を割り当てます。
- ユーザーの役割 – ユーザー認証を管理し、役割を割り当てます。Oracle Fabric Manager はユーザーおよび役割用に内部の IMS をサポートしているだけでなく、[LDAP](#)、[AD](#)、簡易パスワード、または [Kerberos](#) 認証による外部の IMS 機能もサポートしています。

コマンド	リンク
add domain-group-mapping	18 ページの「domain-group-mapping」
remove domain-group-mapping	
set domain-group-mapping	
show domain-group-mapping	
add resource-domain	19 ページの「resource-domain」
remove resource-domain	
set resource-domain	
show resource-domain	
add role-group-mapping	22 ページの「role-group-mapping」
remove role-group-mapping	
set role-group-mapping	
show role-group-mapping	
add user-role	23 ページの「user-role」
remove user-role	
set user-role	

コマンド	リンク
show user-role	

domain-group-mapping

domain-group-mapping コマンドは、外部 [IMS](#) 内のグループを Oracle Fabric Manager 内のドメインにリンクするために使用します。

構文

```
add domain-group-mapping name group domain-name [-description=text]
```

```
remove domain-group-mapping name [-no-confirm]
```

```
set domain-group-mapping name [-group=group-name] [-domain-name=domain-name]  
[-description=text]
```

```
show domain-group-mapping name
```

ここでは:

- *domain-name* はドメインの名前です。
- *group* は、ドメイングループの名前の正規表現です。
- *name* はマッピングレコードの名前です。

オプション

オプション	説明
-description	ドメイングループマッピングを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-domain-name	ドメインの名前を指定します。
-group	ドメイングループの正規表現を指定します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

resource-domain

resource-domain コマンドは、物理サーバー、ファブリックデバイスまたは I/O モジュール、ネットワーク接続、ストレージ接続、およびパーティションを含む [ドメイン](#) を作成するために使用します。ドメイン境界は厳密に適用されるため、Oracle Fabric Manager ホストとその管理対象のファブリックデバイスは同じドメイン内に存在する必要があります。

構文

```
add resource-domain name [-pkey-max=value] [-pkey-min=value]
[-description=text]

remove resource-domain name [-no-confirm]

set resource-domain name [-pkey-max=value] [-pkey-min=value]
[-description=text]

set resource-domain name add physical-server server-name

set resource-domain name add network-cloud cloud-name

set resource-domain name add storage-cloud cloud-name

set resource-domain name add fabric-device device-name

set resource-domain name add io-card card-name

set resource-domain name add partition partition-name

set resource-domain name remove physical-server server-name [-no-confirm]

set resource-domain name remove network-cloud cloud-name [-no-confirm]

set resource-domain name remove storage-cloud cloud-name [-no-confirm]

set resource-domain name remove fabric-device device-name [-no-confirm]

set resource-domain name remove io-card card-name [-no-confirm]

set resource-domain name remove partition partition-name [-no-confirm]

show resource-domain name
```

```
show resource-domain name physical-server
```

```
show resource-domain name fabric-interconnects
```

```
show resource-domain name io-cards
```

```
show resource-domain name network-cloud
```

```
show resource-domain name storage-cloud
```

```
show resource-domain name partition
```

ここでは:

- *card-name* は、ドメイン内の I/O カードの名前です。
- *cloud-name* は、ドメイン内のネットワーククラウドまたはストレージクラウドの名前です。
- *device-name* は、ドメイン内のファブリックデバイスの名前です。
- *name* はドメインの名前です。
- *partition-name* はドメインパーティションの名前です。
- *server-name* は、ドメイン内の物理サーバーの名前です。
- *storage-name* は、ドメイン内のストレージクラウドの名前です。

サブコマンド	説明
add physical-server	ドメインに物理ホストを追加します。物理ホストは、Oracle Fabric Manager で管理されている Oracle Fabric Interconnect に接続されている必要があります。すでにネットワーククラウドまたはストレージクラウドに接続されているホストは指定できません。
add network-cloud	ネットワーク接続を提供するために、ドメインにネットワーククラウドを追加します。ネットワーククラウドは、1 つ以上の終端ポートで構成されます。これらのポートを別のクラウドに割り当てることはできません。
add storage-cloud	ストレージ接続を提供するために、ドメインにストレージクラウドを追加します。ストレージクラウドは、1 つ以上の FC 終端ポートで構成されます。これらのポートを別のクラウドに割り当てることはできません。
add fabric-device	特定のファブリックデバイス (Oracle Fabric Interconnect または Oracle SDN Controller) をドメインに追加します。すでにホストに接続されているファブリックデバイスを追加する場合は、それらのホスト (および関連付けられているネットワーククラウドまたはストレージクラウド) もファブリックデバイスと同じドメイン内に存在する必要があります。
add io-card	ネットワーククラウドやストレージクラウドで使えるように、ドメインに I/O カードを追加します。
add partition	パーティションリソースへの接続を提供するために、ドメインにパーティションを追加します。

サブコマンド	説明
remove physical-server	ドメインから物理ホストを削除します。
remove network-cloud	ドメインからネットワーククラウドを削除します。
remove storage-cloud	ドメインからストレージクラウドを削除します。
remove fabric-device	ドメインからファブリックデバイスを削除します。削除されたファブリックデバイスはデフォルトドメインに戻され、ほかのドメイン内のネットワーククラウドやストレージクラウド、I/Oカード、またはサーバーを使用することはできなくなります。
remove io-card	ドメインから I/O カードを削除します。削除された I/O カードはデフォルトドメインに戻され、ほかのドメイン内のネットワーククラウドやストレージクラウド、ファブリックデバイス、またはホストへの接続に使用することはできなくなります。
remove partition	ドメインからパーティションを削除します。

オプション

オプション	説明
-description	作成するリソースドメインを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-pkey-max	パーティションキーの範囲の最大値を定義します。pKey は、IB パーティションに割り当てられる一意の ID です。pKey の範囲を使用すると、ユーザーの定義された範囲外のパーティション作成が制限されます。
-pkey-min	パーティションキーの範囲の最小値を定義します。pKey は、IB パーティションに割り当てられる一意の ID です。pKey の範囲を使用すると、ユーザーの定義された範囲外のパーティション作成が制限されます。

例: リソースドメインの作成

この例では、HRresources というリソースドメインを作成し、このドメインに West という物理サーバー、Cloud9 というネットワーククラウド、および S_Cloud0 というストレージクラウドを追加します。次に、ドメイン内のリソースを表示します。

```
[OFM] add resource-domain HRresources
[OFM] set resource-domain HRresources add physical-server West
[OFM] set resource-domain HRresources add network-cloud Cloud9
[OFM] set resource-domain HRresources add storage-cloud S_Cloud0
[OFM] show resource-domain HRresources
-----
name                HRresources
description
number-of-servers   1
network-cloud-count 1
storage-cloud-count 1
-----
```

1 record displayed

role-group-mapping

role-group-mapping コマンドは、ユーザーのグループに適切な権限を割り当てます。権限はユーザーに個別に付与することもできます。詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「[ユーザーの管理](#)」を参照してください。

構文

```
add role-group-mapping name group role [-description=text]  
remove role-group-mapping name [-no-confirm]  
  
set role-group-mapping name [-group=text] [-roles=role-names]  
[-description=text]  
  
show role-group-mapping name
```

ここでは:

- *name* はマッピングの名前です。
- *group* は、ユーザーグループの正規表現です。
- *role* はセキュリティー役割の名前です。

オプション

オプション	説明
-description	役割グループマッピングを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-group	構成するユーザーグループの正規表現を指定します。
-roles	グループにマッピングするセキュリティー役割を指定します。 ■ operator ■ administrator ■ network ■ infiniband ■ storage ■ compute

オプション	説明
	■ no-access デフォルトのユーザー役割は operator で、読み取り専用です。役割の詳細については、『Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド』の「ユーザーの役割」を参照してください。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: 役割グループマッピングの追加

この例では、TechnicalSupport という名前の役割グループマッピングを追加し、それに Technical という名前を付け、administrator の役割を割り当てる方法を示します。

```
[OFM] add role-group-mapping TechnicalSupport Technical administrator -description=Managers
[OFM] show role-group-mapping Technical Support
displayed-name    group-names    roles            description
-----
TechnicalSupport  Technical      administrator    Managers
```

user-role

user-role コマンドは、ユーザーに権限を割り当てます。権限は、個々のユーザーまたは既存のユーザーグループに付与できます。詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「[ユーザーの管理](#)」を参照してください。

構文

```
add user-role name domain-name [-roles=role-name] [-description=text]
```

```
remove user-role name [-no-confirm]
```

```
set user-role name [-domain=domain-name] [-roles=role-name] [-apply-template-name={true|false}] [-session-timeout=value] [-description=text]
```

```
show user-role name
```

ここでは:

- *name* はユーザーの名前です。Oracle Fabric Manager マシンの OS で認証されるものと同じ名前を使用してください。
- *domain-name* はリソースドメインの名前です。

オプション

オプション	説明
-apply-template-name	特定のタイプのユーザーにテンプレート名を適用します。 ■ true ■ false このオプションを使用すると、同じ役割を持つユーザーをすばやく追加できます。
-description	ユーザー役割を説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-domain	ユーザーのリソースドメインの名前を指定します。
-roles	ユーザーのセキュリティ役割の名前を指定します。 ■ operator ■ administrator ■ network ■ infiniband ■ storage ■ compute ■ no-access デフォルトのユーザー役割は operator で、読み取り専用です。
-session-timeout	ユーザーセッションが非アクティブになるまでの時間を分単位で指定します。

例: ユーザーに割り当てられた役割の変更

この例では、ユーザーの作成時に割り当てられたデフォルトの役割である Operator を変更します。ユーザーには administrator の役割、および Team Leader という説明が割り当てられます。

```
[OFM] set user-role JohnDoe -domain=West -roles=administrator -description="Team Leader"
```

管理対象デバイスの構成

このトピックでは、CLI を使用してファブリック上の管理対象デバイス (Fabric Interconnect、IB スイッチ、[SDN](#) コントローラなど) を追加および制御する方法について説明します。

コマンド	リンク
<code>add fabric-interconnect</code>	25 ページの「fabric-interconnect」
<code>remove fabric-interconnect</code>	
<code>set fabric-interconnect</code>	
<code>show fabric-interconnect</code>	
<code>add oracle-infiniband-switch</code>	33 ページの「oracle-infiniband-switch」
<code>remove oracle-infiniband-switch</code>	
<code>set oracle-infiniband-switch</code>	
<code>show oracle-infiniband-switch</code>	
<code>add sdn-controller</code>	37 ページの「sdn-controller」
<code>remove sdn-controller</code>	
<code>set sdn-controller</code>	
<code>show sdn-controller</code>	

fabric-interconnect

`fabric-interconnect` コマンドは、ファブリック上のネットワークデバイスおよびストレージデバイスの追加、およびそれらのデバイスとの通信に使用します。[SNMP](#) トラップ宛先、[AD](#) サーバー、および [RADIUS](#) サーバーを追加および削除できます。

構文

```
add fabric-interconnect hostname user-name [-password=user-password]
```

```
remove fabric-interconnect name [-no-confirm]

set fabric-interconnect name [-admin-user=user-name] [-admin-password=admin-  
password] [-ip-address=IP-address] [-ip-subnet=subnet-name] [-default-  
gateway=gateway-name] [-snmp-read-community=community-name] [-snmp-system-  
name=SNMP-name] [-snmp-system-location=SNMP-location] [-snmp-system-  
contact=SNMP-contact] [-snmp-description=SNMP-description] [-phone-home={true|  
false}] [-phone-home-frequency=phone-frequency] [-phone-home-notification={true|  
false}] [-strip-private={true|false}] [-send-alarms={true|false}] [-http-proxy-  
host=proxy-host] [-http-proxy-port=proxy-port-number] [-http-proxy-user=proxy-user-  
name] [-http-proxy-pwd=proxy-password] [-send-url=send-url] [-copy-url=copy-url]   
[-customer-name=customer-name] [-contact-phone-number=contact-phone] [-contact-  
email=contact-email] [-description=text]

set fabric-interconnect name collect-tech-support

set fabric-interconnect name collect-log-files

set fabric-interconnect name add user user-name user-role [-password=user-  
password] [-password2=confirm-user-password]

set fabric-interconnect name add snmp-secure-user user-name authorization-  
protocol [-authorization-password=auth-password] [-privacy-protocol=priv-protocol]   
[-privacy-password=priv-password]

set fabric-interconnect name add snmp-trap-destination address port SNMP-  
community SNMP-version [-user-name=user-name] [-authorization-protocol=auth-  
protocol] [-authorization-password=auth-password] [-privacy-protocol=priv-protocol]   
[-privacy-password=priv-password]

set fabric-interconnect name add ad-server ad-server-name host-server-name   
user-dn base-dn server-mode authorization-type [-password=user-password] [-port=value]   
[-formal-user-dn=formal-user-dn] [-kerberos-default-realm=kerberos-realm]   
[-kerberos-default-domain=kerberos-domain] [-kerberos-host-name=kerberos-hostname]   
[-kerberos-port=kerberos-port]

set fabric-interconnect name add radius-server radius-server-name host-server-  
name user-name secret [-password=user-password] [-authorization-type=auth-type]   
[-port=value] [-retries=value] [-timeout=value]

set fabric-interconnect name add radius-user radius-user user-role

set fabric-interconnect name remove user user-name [-no-confirm]

set fabric-interconnect name remove snmp-secure-users user-name [-no-  
confirm]

set fabric-interconnect name remove snmp-trap-destination address [-no-  
confirm]
```

```
set fabric-interconnect name remove ad-server ad-server-name [-no-confirm]

set fabric-interconnect name remove radius-server radius-server-name [-no-confirm]

set fabric-interconnect name remove radius-user radius-user [-no-confirm]

set fabric-interconnect name set user user-name user-role [-password=password] [-password2=confirm-password]

set fabric-interconnect name set snmp-secure-users user-name authorization-protocol privacy-protocol [-authorization-password=auth-password] [-privacy-password=priv-password]

set fabric-interconnect name set snmp-trap-destination address SNMP-community SNMP-version

set fabric-interconnect name set ims cache-timeout token-timeout [-maps-to-root=maps-to-root] [-search-order=search-order] [-server-type=server-type]

set fabric-interconnect name set ad-server ad-server-name host-server-name user-dn base-dn server-mode authorization-type [-password=user-password] [-port=value] [-formal-user-dn=formal-user-dn] [-kerberos-default-realm=kerberos-realm] [-kerberos-default-domain=kerberos-domain] [-kerberos-host-name=kerberos-host-name] [-kerberos-port=kerberos-port]

set fabric-interconnect name set radius-server radius-server-name host-server-name user-name secret [-password=user-password] [-authorization-type=auth-type] [-port=value] [-retries=value] [-timeout=value]

set fabric-interconnect name set radius-user radius-user user-role

show fabric-interconnect name [-detail]

show fabric-interconnect name io-cards

show fabric-interconnect name fc-ports

show fabric-interconnect name ethernet-ports

show fabric-interconnect name user

show fabric-interconnect name snmp-secure-user

show fabric-interconnect name snmp-secure-trap-destination

show fabric-interconnect name fan

show fabric-interconnect name power-supply
```

```
show fabric-interconnect name ims
```

```
show fabric-interconnect name ad-servers
```

```
show fabric-interconnect name radius-servers
```

```
show fabric-interconnect name radius-users
```

ここでは:

- *address* は SNMP トラップ宛先の IP アドレスです。
- *ad-server-name* は **AD** サーバーの名前です。
- *authorization-protocol* は、トラップ宛先へのログイン時に使用する承認のタイプです。
- *authorization-type* は、AD または RADIUS サーバーが適用する承認のタイプです。
- *base-dn* は、AD サーバーが使用するベースドメイン名です。たとえば、DC=pubstest, DC=example, DC=com は正しい形式のベース DN です。
- *cache-timeout* は、Oracle Fabric Manager ホストの IMS キャッシュをフラッシュして外部の認証サーバーと再同期する周期です。IMS キャッシュは暗号化されており、すべての構成済みユーザーのユーザー名、パスワード、および役割を含んでいます。
- *hostname* は、Fabric Interconnect の DNS 名または IP アドレスです。
- *host-server-name* は、ユーザーが認証のためにアクセスするホストの名前または IP アドレスです。ホストサーバー名は、完全修飾ドメイン名にする必要があります。
- *name* は Fabric Interconnect の名前です。
- *port* は、Oracle Fabric Manager ホストと SNMP トラップ宛先が通信に使用する専用ポートの番号です。
- *privacy-protocol* は、SNMP サーバーに使用するプロトコルのタイプです。
- *radius-server-name* は、RADIUS サーバーに付ける名前です。ニックネーム、別名、またはその他の完全修飾ドメイン名でない名前を指定できます。
- *radius-user* は、RADIUS サーバーのユーザー名です。
- *secret* は、Oracle Fabric Manager ホストと RADIUS サーバーの間で使用される RADIUS パスワードです。Oracle Fabric Manager ホストは、このパスワードで RADIUS サーバーにログインしてユーザー認証を受けることができます。
- *server-mode* は、構成するサーバーがプライマリ AD サーバーかセカンダリ AD サーバーかを指定します。選択肢は **primary** (最初にログインが試行される) または **secondary** (プライマリ AD サーバーが応答しない場合に使用される) です。
- *SNMP-community* は SNMP コミュニティの名前です。
- *SNMP-version* は SNMP のバージョンです。SNMP バージョン 2 を使用する場合、ユーザー名、承認またはプライバシプロトコル、およびパスワードを定義する必要はありません。
- *token-timeout* は、IMS が認証の実行を待機し始めてからタイムアウトが発生するまでの時間です。

- *user-dn* は AD サーバーのユーザードメイン名です。例: *example.com*。
- *user-name* はユーザーの名前です。
- *user-role* はユーザーの役割の名前です。

このコマンドには、その機能を指定するサブコマンドがあります。次の表に、サブコマンドの説明と構文を示します。

サブコマンド	説明
add ad-server	Fabric Interconnect に AD サーバーを追加します。
add radius-server	Fabric Interconnect に RADIUS サーバーを追加します。
add radius-user	Fabric Interconnect に RADIUS ユーザーを追加します。
add snmp-secure-user	Fabric Interconnect に SNMP セキュアユーザーを追加します。
add snmp-trap-destination	Fabric Interconnect に SNMP セキュアトラップ宛先を追加します。
add user	Fabric Interconnect にユーザーを追加します。
collect-log-files	Fabric Interconnect からログファイルを収集します。
collect-tech-support	Fabric Interconnect からテクニカルサポート情報を収集します。
remove ad-server	Fabric Interconnect から AD サーバーを削除します。
remove radius-server	Fabric Interconnect から RADIUS サーバーを削除します。
remove radius-user	Fabric Interconnect から RADIUS ユーザーを削除します。
remove snmp-secure-users	Fabric Interconnect から SNMP セキュアユーザーを削除します。
remove snmp-trap-destination	Fabric Interconnect から SNMP トラップ宛先を削除します。
remove user	Fabric Interconnect からユーザーを削除します。
set ad-server	Fabric Interconnect 上の AD サーバーを構成します。
set ims	Fabric Interconnect 上の IMS を構成します。
set radius-server	Fabric Interconnect 上の RADIUS サーバーを構成します。
set radius-user	RADIUS ユーザーを構成します。
set snmp-secure-users	SNMP セキュアユーザーを構成します。
set snmp-trap-destination	Fabric Interconnect の SNMP トラップ宛先を構成します。
ad-servers	AD サーバーを表示します。
ethernet-ports	Fabric Interconnect 上の Ethernet ポートを表示します。
fan	Fabric Interconnect 上のファンを表示します。
fc-ports	Fabric Interconnect 上の FC ポートを表示します。
ims	Fabric Interconnect 上の IMS 情報を表示します。
io-cards	Fabric Interconnect 上の I/O カードを表示します。
power-supply	Fabric Interconnect 上の電源装置を表示します。
radius-servers	Fabric Interconnect 上の RADIUS サーバーを表示します。
radius-users	Fabric Interconnect 上の RADIUS ユーザーを表示します。
snmp-secure-trap-destination	Fabric Interconnect 上の SNMP セキュアトラップ宛先を表示します。
snmp-secure-user	Fabric Interconnect 上の SNMP セキュアユーザーを表示します。
user	Fabric Interconnect 上のユーザーを表示します。

オプション

オプション	説明
-admin-password	管理パスワードを定義します。
-admin-user	管理ユーザー名を定義します。
-authorization-password	SNMP セキュアユーザーのパスワードを定義します。
-authorization-protocol	SNMP トラップ宛先へのログイン時に使用する承認のタイプを指定します。 ■ SHA – 承認なし。 ■ DES – データ暗号化標準。 ■ AES128 – Advanced Encryption Standard 128 ビット暗号化。
-authorization-type	RADIUS サーバーがユーザーに適用する承認のタイプを指定します。 ■ PAP – 簡易パスワード認証方法です。PAP はデフォルトの認証プロトコルです。 ■ CHAP – ユーザーのパスワードと計算を組み合わせ、それを RADIUS のチャレンジを受けたユーザーが入力した情報と比較します。CHAP は PAP よりセキュアです。 AD サーバーがユーザーに適用する承認のタイプを指定します。 ■ simple – デフォルトの簡易パスワード認証を指定します。 ■ Kerberos – IMS として Kerberos 認証を使用するかどうか指定します。
-contact-email	連絡先の電子メールアドレスを指定します。
-contact-phone-number	連絡先の電話番号を指定します。
-copy-url	コピーする URL を指定します。
-customer-name	連絡先顧客名を指定します。
-default-gateway	デフォルトゲートウェイを指定します。
-description	説明を指定します。
-detail	詳細情報を表示します。
-formal-user	サーバーが処理するユーザードメイン名を指定します。例: pubs@pubstest.example.com。
-http-proxy-host	HTTP プロキシホストを定義します。
-http-proxy-port	HTTP プロキシポートを定義します。
-http-proxy-pwd	HTTP プロキシパスワードを定義します。
-http-proxy-user	HTTP プロキシユーザーを定義します。
-ip-address	IP アドレスを指定します。
-ip-subnet	トラップ宛先のネットワークアドレスを指定します。
-kerberos-default-domain	Kerberos デフォルトドメインを指定します。例: example.com。
-kerberos-default-realm	Kerberos デフォルトレルムを指定します。例: DC=pubstest, DC=example, DC=com。
-kerberos-host-name	ユーザーの認証を行う Kerberos ホストサーバーの名前を指定します。
-kerberos-port	Kerberos ポート番号を指定します。デフォルトはポート 88 です。

オプション	説明
-maps-to-root	認証サーバー上のユーザーアカウント情報の格納場所を定義します。この場所は通常、ユーザーとグループを構成する場所です。AD の場合は、通常、ユーザーを入力します。デフォルトは root です。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-password	ファブリックへのアクセスを制御します。
-password2	確認のためにもう一度パスワードの入力を求めます。
-phone-home	フォンホーム機能を有効にします。
-phone-home-frequency	フォンホームアクションの頻度を指定します。
	■ alarms-only ■ daily ■ monthly ■ weekly
-phone-home-notification	フォンホーム通知を指定します。
	■ true ■ false
-port	次のアクションに使用するポート番号を定義します。
	■ トラップ宛先へのトラップの送信。デフォルトでは、ポート 162 が使用されます。ほかのトラフィックをサポートしていない別のポートを設定することもできます。有効なポートは 1-65567 です。 ■ RADIUS サーバーとの通信。 ■ AD サーバーとの通信。
-privacy-password	SNMP セキュアユーザーのパスワードを指定します。
-privacy-protocol	SNMP セキュアユーザーのプロトコルを指定します。
	■ None – 承認なし。 ■ DES – データ暗号化標準。 ■ AES128 – Advanced Encryption Standard 128 ビット暗号化。
-retries	Oracle Fabric Manager ホストと RADIUS サーバーの間で行われる再試行の許容回数を指定します。0 - 100 の数値を入力します。デフォルトの再試行回数は 3 です。ゼロを入力すると再試行は行われず、Oracle Fabric Manager ホストと RADIUS サーバー間の接続試行が失敗すると、認証試行は中断されます。
-search-order	ユーザーアカウント情報で最初にチェックする IMS エンティティを定義します。
	■ InternalFirst – IMS は最初に IMS サーバーのローカルユーザーおよびグループを調べます。内部の IMS でユーザーアカウント情報が見つからない場合は、外部の IMS (たとえば、AD サーバー) をチェックします。 ■ ExternalFirst – IMS は最初に外部の IMS サーバー (たとえば、AD サーバー) でユーザーおよびグループ情報を調べます。外部の IMS でユーザーアカウント情報が見つからない場合は、IMS サーバーのローカルユーザーのデータベースをチェックします。 詳細は、『Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド』の「Fabric Interconnect ユーザーの管理」を参照してください。
-send-alarms	アラームの送信を有効にします。
	■ true

オプション	説明
	■ false
-send-url	URL を送信するよう指定します。
-server-type	現在使用中の外部認証のタイプを指定します。
	■ AD 構成 – この値は <code>ldap_ad</code> である必要があります。 ■ RADIUS 認証 – この値は <code>RADIUS</code> である必要があります。
-snmp-description	SNMP の説明を設定します。
-snmp-read-community	SNMP トラップ宛先の読み取りコミュニティ文字を指定します。
-snmp-system-contact	SNMP システム連絡先を設定します。
-snmp-system-location	SNMP システムの場所を設定します。
-snmp-system-name	SNMP システム名を設定します。
-strip-private	Fabric Interconnect がプライベートであることを示します。
	■ true ■ false
-timeout	Oracle Fabric Manager ホストと RADIUS サーバーの間で行われるログイン試行の秒数を定義します。数値は 0 から 120 の間である必要があります。デフォルトは 3 秒です。ゼロを入力すると、タイムアウト値は設定されず、ログイン試行が失敗します。

例: Fabric Interconnect の追加

この例では、ユーザー、パスワード、および IP アドレスを割り当てて `Central` という名前の Fabric Interconnect を作成し、表示します。

```
[OFM] add fabric-interconnect Central JohnDoe -password=pass555 -ipaddress=172.16.0.216
[OFM] show fabric-interconnect Central -detail
-----
name                Central
address             172.16.0.216
state               up/up
phase               new
subnet-name         Central
modules             10
version             Build 4.0.0-XGOS - (buildsys) Wed APR 06 09:47:53 PDT 2016
mac-info (address/mask) 00:13:97:23:30:00/12
gateway             0.0.0.0
user-name           JohnDoe
serial-number       141015537
model               VP780-CH-DDR
type/speed          ddrIBFabricCard/DDR
wnn-info(name/mask) 50:01:39:70:00:22:50:00/12
netmask             0.0.0.0
network-domain      lab.example.com
description
phone-home          true
phone-home-notification false
strip-private       false
send-alarms         true
phone-home-frequency alarms_only
http-proxy-host
http-proxy-port     3128
```

```

http-proxy-user
send-url          http://phone-home.example.com:6522
copy-url
contact-customer-name
snmp-read-community    public
snmp-system-name      VP780-CH-DDR
snmp-location
snmp-system-contact    asd
-----

```

oracle-infiniband-switch

oracle-infiniband-switch コマンドは、ファブリック上の IB スイッチの追加および管理に使用します。詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「[Oracle IB スイッチの詳細の管理](#)」を参照してください。

構文

```

add oracle-infiniband-switch hostname user-name [-password=user-password]

remove oracle-infiniband-switch name [-no-confirm]

set oracle-infiniband-switch name [-ip-address=IP-address] [-admin-
user=user-name] [-admin-password=password] [-ip-subnet=IP-subnet] [-default-
gateway=gateway-name] [-description=text] [-snmp-read-community=community-name]
[-snmp-system-name=system-name] [-snmp-system-location=system-location] [-snmp-
system-contact=contact-name] [-snmp-description=text]

set oracle-infiniband-switch name add snmp-secure-user user-name
authorization-protocol [-authorization-password=auth-password] [-privacy-
protocol=priv-protocol] [-privacy-password=priv-password]

set oracle-infiniband-switch name add snmp-trap-destination address port
SNMP-community SNMP-version [-user-name=user-name] [-authorization-protocol=auth-
protocol] [-authorization-password=auth-password] [-privacy-protocol=priv-protocol]
[-privacy-password=priv-password]

set oracle-infiniband-switch name remove snmp-secure-users user-name
[-no-confirm]

set oracle-infiniband-switch name remove snmp-trap-destination address
[-no-confirm]

set oracle-infiniband-switch name set snmp-secure-users user-name
authorization-protocol [-authorization-password=auth-password] [-privacy-
protocol=priv-protocol] [-privacy-password=priv-password]

```

```
set oracle-infiniband-switch name set snmp-trap-destination address SNMP-community SNMP-version
```

```
set oracle-infiniband-switch name set ilom [-host-name=host-name] [-user-name=user-name] [-authorization-password=auth-password] [-private-password=priv-password] [-sync-period=sync-period]
```

```
set oracle-infiniband-switch name collect-tech-support
```

```
set oracle-infiniband-switch name collect-log-files
```

```
set oracle-infiniband-switch name ib-port IB-port up
```

```
set oracle-infiniband-switch name ib-port IB-port down
```

```
set oracle-infiniband-switch name ib-port IB-port multi-port-change
```

```
set oracle-infiniband-switch name gateway-port gateway-port up
```

```
set oracle-infiniband-switch name gateway-port gateway-port down
```

```
set oracle-infiniband-switch name gateway-port gateway-port multi-port-change
```

```
show oracle-infiniband-switch name
```

```
show oracle-infiniband-switch name fan
```

```
show oracle-infiniband-switch name gateway-port
```

```
show oracle-infiniband-switch name ib-port
```

```
show oracle-infiniband-switch name power-supply
```

```
show oracle-infiniband-switch name snmp-secure-user
```

```
show oracle-infiniband-switch name snmp-secure-trap-destination
```

ここでは:

- *address* は SNMP トラップ宛先の IP アドレスです。
- *authorization-protocol* は、スイッチのトラップ宛先または [Oracle ILOM](#) へのログイン時に使用する承認プロトコルの名前です。
- *gateway-port* はデフォルトゲートウェイのポート番号です。
- *hostname* は、追加する IB スイッチの名前です。DNS 名または IP アドレスを入力してください。
- *ib-port* は IB スイッチのポート番号です。
- *name* は IB スイッチの名前です。

- *port* は、トラップ宛先に SNMP トラップを送信するときに使用するポート番号です。デフォルトのポートは 162 です。有効なポートは 1 - 65567 です。
- *SNMP-community* は、SNMP コミュニティーの読み取りコミュニティ文字列の名前です。
- *SNMP-version* は SNMP のバージョンです。SNMP バージョン 2 を使用する場合、ユーザー名、承認またはプライバシプロトコル、およびパスワードは必要ありません。
- *user-name* は、トラップ宛先にログインするために使用する名前です。

サブコマンド	説明
<code>add snmp-secure-user</code>	IB スイッチの SNMP セキュアユーザーを作成します。
<code>add snmp-trap-destination</code>	IB スイッチの SNMP トラップ宛先を作成します。
<code>collect-log-files</code>	管理対象デバイスからコアファイルとログファイルを収集します。2 つ目の管理対象デバイスがある場合は、このプロセスを繰り返す必要があります。詳細は、『 Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド 』の「 デバイスログファイルの収集 」を参照してください。
<code>collect-tech-support</code>	テクニカルサポートログ内の管理対象デバイスに関する情報を収集して Oracle サポートに送信できるようにします。2 つ目の管理対象デバイスがある場合は、このプロセスを繰り返す必要があります。詳細は、『 Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド 』の「 技術サポート情報の収集 」を参照してください。
<code>fan</code>	IB スイッチのファンの状態を表示します。
<code>gateway-port</code>	IB スイッチのゲートウェイポートの状態を表示します。
<code>gateway-port down</code>	IB スイッチのゲートウェイポートを非アクティブ化します。
<code>gateway-port gateway-port multi-port-change</code>	IB スイッチのゲートウェイポートを IB ポートに変更します。
<code>gateway-port gateway-port up</code>	IB スイッチのゲートウェイポートをアクティブ化します。
<code>ib-port</code>	IB スイッチの IB ポートの状態を表示します。
<code>ib-port IB-port down</code>	IB スイッチの IB ポートを非アクティブ化します。
<code>ib-port IB-port multi-port-change</code>	IB スイッチの IB ポートをゲートウェイポートに変更します。
<code>ib-port IB-port up</code>	IB スイッチの IB ポートをアクティブ化します。
<code>power-supply</code>	IB スイッチの電源装置の状態を表示します。
<code>remove snmp-secure-users</code>	既存の SNMP ユーザーを削除します。
<code>remove snmp-trap-destination</code>	既存の SNMP トラップを削除します。
<code>set ilom</code>	IB スイッチの Oracle ILOM プロパティを構成します。
<code>set snmp-secure-user</code>	SNMP ユーザーを構成します。
<code>set snmp-trap-destination</code>	SNMP トラップを構成します。
<code>snmp-secure-trap-destination</code>	構成済みの SNMP トラップ宛先を表示します。
<code>snmp-secure-user</code>	構成済みの SNMP ユーザーを表示します。

オプション

オプション	説明
-admin-password	IB スイッチの管理ユーザーのパスワードを指定します。
-admin-user	IB スイッチの管理ユーザーの名前を定義します。
-authorization-password	ユーザーの承認パスワードを指定します。
-authorization-protocol	SNMP トラップ宛先へのログインに使用する承認のタイプを指定します。 ■ None – 承認なし。 ■ MD5 – MD5 ハッシュアルゴリズム。 ■ SHA – セキュアハッシュアルゴリズム。
-default-gateway	デフォルトゲートウェイの名前を指定します。
-description	IB スイッチを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-group	構成するユーザーグループの名前を指定します。
-ip-address	IB スイッチの IP アドレスを指定します。
-ip-subnet	IP サブネットのアドレスを指定します。
-password	IB スイッチのパスワードを指定します。
-private-password	ユーザーのプライバシーパスワードを指定します。
-roles	グループにマッピングするセキュリティ役割を指定します。 ■ operator ■ administrator ■ network ■ infiniband ■ storage ■ compute ■ no-access デフォルトのユーザー役割は operator で、読み取り専用です。役割の詳細については、『Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド』の「ユーザーの役割」を参照してください。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-snmp-description	SNMP の説明を設定します。
-snmp-read-community	SNMP 読み取りコミュニティを指定します。
-snmp-system-contact	SNMP システム連絡先を定義します。
-snmp-system-location	SNMP システムの場所を定義します。
-snmp-system-name	SNMP システム名を定義します。
-sync-period	同期期間の時間を定義します。
-user-name	IB スイッチのユーザーの名前を定義します。

例: IB スイッチの追加

この例では、**frisco** という名前の IB スイッチをファブリックに追加する方法を示します。

```
[OFM] add oracle-infiniband-switch frisco MAnderson -password=pass595
[OFM] show oracle-infiniband-switch frisco
-----
name                frisco
ip-address           192.168.86.118
discovery-state      discovered
oracle-sdn-subnet    frisco.us.example.com
i/o-modules          3
software-version     Build branch-OFOS-1.0.0-46223 - (akoslappe) Fri Apr 15 18:27:01 PDT
                    2016
-----
1 record displayed
```

sdn-controller

sdn-controller コマンドは、Oracle Fabric Manager にプライマリ Oracle SDN Controller を追加するために使用します。

構文

```
add sdn-controller hostname user-name [-password=user-password]

remove sdn-controller name [-no-confirm]

set sdn-controller name add-backup hostname user-name [-password=user-password]

set sdn-controller name remove-backup address [-no-confirm]

set sdn-controller name set address activate

set sdn-controller name set address deactivate

show sdn-controller name [-detail]

show sdn-controller name backup
```

ここでは:

- *address* はバックアップ SDN コントローラのバックアップアドレスです。
- *hostname* は、SDN コントローラの DNS 名または IP アドレスです。
- *name* は SDN コントローラの名前です。
- *user-name* は SDN ユーザーの名前です。

サブコマンド	説明
add-backup	Oracle Fabric Manager にバックアップ Oracle SDN Controller を追加します。

サブコマンド	説明
backup	バックアップ Oracle SDN Controller を表示します。
remove-backup	バックアップ Oracle SDN Controller を削除します。
set address activate	バックアップ Oracle SDN Controller を有効にします。
set address deactivate	バックアップ Oracle SDN Controller を無効にします。

オプション

オプション	説明
-address	バックアップ SDN コントローラのアドレスを指定します。
-description	SDN コントローラを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-password	SDN コントローラのユーザーのパスワードを指定します。

IB ファブリックの構成

これらのトピックでは、CLI を使用して IB ファブリックの次の機能を構成および管理する方法について説明します。

- パーティション – アクセスレベルを制御し、**IB** パーティションにアクセスできるエンティティを定義します。
- サブネットマネージャー – IB サブネットの管理とモニタリングを行う **SM** グループ。

コマンド	リンク
show logical-network	39 ページの「logical-network」
add partition	40 ページの「partition」
remove partition	
set partition	
show partition	
add sm-group	42 ページの「sm-group」
remove sm-group	
set sm-group	
show sm-group	

logical-network

logical group コマンドは、検出された **OpenSM** で検出されたネットワークの表示、および各ネットワークのファブリックデバイスに関する詳細の表示に使用します。

構文

```
show logical-network name
```

```
show logical-network name fabric-device
```

ここで、*name* は論理ネットワークの名前です。

サブコマンド	説明
<code>fabric-device</code>	指定したネットワーク内のファブリックデバイスのリストを表示します。

partition

partition コマンドは、IB パーティションを作成するために使用します。

構文

```
add partition name partition-key sm-group [-ipoib-enabled={true|false}] [-use-grh={true|false}] [-membership-all=group-membership-name] [-membership-all-cas=group-cas-name] [-membership-all-routers=group-routers-name] [-membership-all-switches=group-switches-name] [-membership-self=group-controller-hca-name] [-description=text]
```

```
remove partition name [-no-confirm]
```

```
set partition name [-ipoib-enabled={true|false}] [-use-grh={true|false}] [-membership-all=group-membership-name] [-membership-all-cas=group-cas-name] [-membership-all-routers=group-routers-name] [-membership-all-switches=group-switches-name] [-membership-self=group-controller-hca-name] [-description=text]
```

```
set partition name add hcas hca [-membership=membership-name]
```

```
set partition name add tcas tcas [-membership=membership-name]
```

```
set partition name set port-member [-membership=membership-name]
```

```
set partition name remove port-member [-no-confirm]
```

```
show partition name
```

```
show partition name port-member
```

ここでは:

- *hca* は [HCA](#) の GUID です。

- *name* はパーティションの名前です。
- *partition-key* は、IB パーティションに割り当てる一意の ID です。
- *port-member* はポートメンバーです。
- *sm-group* は、パーティションを割り当てる既存の SM グループです。
- *tca* は **TCA** ポートメンバーです。

サブコマンド	説明
add hcas	HCA にパーティションへのアクセス権を付与します。
add tcas	TCA にパーティションへのアクセス権を付与します。
remove	パーティションからポートメンバーを削除します。
set	パーティションにアクセスできるポートメンバーを構成します。

オプション

オプション	説明
-description	パーティションを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-ipoib-enabled	パーティション上で IPoIB を有効にします。 ■ true ■ false
-membership	ファブリック上の HCA および TCA へのアクセスを許可します。次のメンバーシップタイプから 1 つ選択してください。 ■ both – 完全と制限の両方のパケットがこのチャネルアダプタを通過できます。このオプションは SR-IOV で使用されます。 ■ disabled – メンバーシップを無効にします。 ■ full – パーティションの完全メンバーと制限メンバーの両方と通信します。これがデフォルトです。 ■ limit – 完全メンバーとのみ通信します。
-membership-all	ファブリック内のすべてのエンティティへのアクセスをこのグループに許可します。
-membership-all-cas	すべてのチャネルアダプタ (HCA と TCA。ただし vHCA は除く) へのアクセスをこのグループに許可します。
-membership-all-routers	すべてのルーティングポートへのアクセスをこのグループに許可します。
-membership-all-switches	スイッチノードへのアクセスをこのグループに許可します。
-membership-self	システムコントローラの HCA (OpenSM マスターが実行されているシステム) へのアクセスをこのグループに許可します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-use-grh	パーティションに GRH を使用します。

オプション	説明
	■ true
	■ false

例

この例では、ABC という名前のパーティションを作成する方法を示します。このパーティションは SM グループ basicSM に属し、6fff というパーティションキーと、全スイッチのグループのメンバーシップを持ちます。

```
[OFM] add partition ABC 6fff basicSM -membership-all-switches=both
[OFM] show partition ABC
-----
name                ABC
partition-key       6fff
ipoib                false
use-grh              false
group/membership     All/full+AllCas/full+AllRouters/full+AllSwitches/both+Self/full
number-of-ports      1
status               good
description
-----
1 records displayed
```

sm-group

sm-group コマンドは、IB サブネットの管理とモニタリングを行うためのサブネットグループの作成に使用します。

ヒント - SM キー、信頼できる MKey、および信頼できない MKey によって、一般的な IB 管理キーよりも強化されたセキュリティが提供されます。

構文

```
add sm-group name [-password=group-password] [-description=text]

remove sm-group name [-no-confirm]

set sm-group name [-password=group-password] [-description=text]

set sm-group name fabric-device fabric-device down

set sm-group name fabric-device fabric-device up
```

```

set sm-group name sm-key-set sm-key-set down

set sm-group name sm-key-set sm-key-set up

set sm-group name add fabric-device fabric-device

set sm-group name add sm-key-set sm-key-set trusted-mkey untrusted-mkey

set sm-group name set fabric-device [-routing-engine=routing-engine]
[-priority=value] [-prefix-id=subnet-prefix-ID] [-controlled-handover={true|false}]

set sm-group name remove fabric-device fabric-device [-no-confirm]

set sm-group name remove sm-key-set sm-key-set [-no-confirm]

show sm-group name

show sm-group name sm-device

show sm-group name group-member

show sm-group name sm-key-set

```

ここでは:

- *fabric-device* はファブリックデバイスの名前です。
- *name* は SM グループの名前です。
- *sm-key-set* は SM キーセットの名前です。SM キーは、[OpenSM](#) に関するメッセージを制御します。
- *trusted-mkey* は、プログラミングスイッチに関するメッセージを制御します。この MKey は、すべてのスイッチに指定されます。
- *untrusted-mkey* は、その他のメッセージを制御します。この MKey は、汎用の IB ファブリックの Mkey に似ています。

サブコマンド	説明
add fabric-device	SM ファブリックデバイスを SM グループに追加します。
add sm-key-set	SM キーを SM グループに追加します。SM キーセットは、OpenSM に関するメッセージを制御します。
fabric-device fabric-device down	ファブリックデバイスを無効にします。
fabric-device fabric-device up	ファブリックデバイスを有効にします。
group-member	SM グループメンバーのリストを表示します。
remove fabric-device	SM グループ内の既存のファブリックデバイスを削除します。
remove sm-key-set	既存の SM キーセットを削除します。
set fabric-device	SM グループのファブリックデバイスのプロパティを指定します。
sm-device	既存の SM デバイスを表示します。

サブコマンド	説明
sm-key-set <i>sm-key-set</i> down	SM キーセットを無効にします。
sm-key-set <i>sm-key-set</i> up	SM キーセットを有効にします。

オプション

オプション	説明
-controlled-handover	これがメンバーシップのハンドオーバーかどうかを指定します。 ■ true ■ false
-description	SM グループを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-password	SM グループのパスワードを指定します。
-prefix-id	サブネットの接頭辞 ID を定義します。
-priority	ファブリックデバイスに優先度値を割り当てます。
-routing-engine	ルーティングエンジンを指定します。 ■ free ■ minhop

例: SM グループの作成

この例では、EngGroup という名前の SM グループを作成し、このグループに delaware という名前のファブリックデバイスを追加します。次に、ファブリックデバイスをオンラインにし、デバイスで ftree ルーティングエンジンを使用するように指定する方法を示します。

```
[OFM] add sm-group EngGroup -password-12344
[OFM] set sm-group EngGroup add fabric-device delaware
[OFM] set sm-group EngGroup fabric-device delaware up
[OFM] set sm-group EngGroup set delaware -routing-engine=ftree
[OFM] show sm-group EngGroup sm-device
name      number-of-devices  routing-engine  status  description
-----
EngGroup  1                  ftree          good
1 record displayed
```

ネットワーククラウドの構成

これらのトピックでは、CLI を使用して次のタイプのクラウドおよびクラウドコンポーネントを作成、表示、および削除する方法について説明します。

- Ethernet ポート
- [LAG](#)
- ネットワーククラウド
- パブリッククラウド
- PVI クラウド
- [QoS](#) プロファイル
- vNIC

コマンド構文	リンク
add ethernet-lag	46 ページの「ethernet-lag」
remove ethernet-lag	
set ethernet-lag	
show ethernet-lag	
show ethernet-port	48 ページの「ethernet-port」
show mac-based-qos	49 ページの「mac-based-qos」
add network-cloud	49 ページの「network-cloud」
remove network-cloud	
set network-cloud	
show network-cloud	
show network-qos	54 ページの「network-qos」
add public-cloud	54 ページの「public-cloud」
remove public-cloud	
set public-cloud	
show public-cloud	
add pvi-cloud	58 ページの「pvi-cloud」
remove pvi-cloud	
set pvi-cloud	

コマンド構文	リンク
show pvi-cloud	
show san-qos	60 ページの「san-qos」
add vnic	61 ページの「vnic」
remove vnic	
set vnic	
show vnic	

ethernet-lag

ethernet-lag コマンドは、[LAG](#) の作成と管理に使用します。複数の個々の物理 Ethernet ポートを、LAG と呼ばれる 1 つの論理グループにまとめることができます。LAG に結合されたポートは並列処理が可能で、帯域幅の向上と高可用性の確保を実現できます。

構文

```
add ethernet-lag name port [-description=text] [-lacp={true|false}]
```

```
remove ethernet-lag name [-no-confirm]
```

```
set ethernet-lag name [-description=text] [-admin-rate=value] [-mtu=value]  
[-access-vlan=vlan-ID] [-flow-control={true|false}] [-lacp-enable={true|  
false}] [-port-mode=port-mode] [-tag-native={true|false}] [-igmp-  
snooping={true|false}]
```

```
set ethernet-lag name add port
```

```
set ethernet-lag name remove port [-no-confirm]
```

```
show ethernet-lag name [-detail]
```

```
show ethernet-lag name ports
```

ここでは:

- *name* は LAG ID を指定します。これはカードのタイプによって決まります。名前は 1-5 文字である必要があります。
- *port* は、LAG の作成に使用される Ethernet ポートの名前を指定します。

サブコマンド	説明
add	LAG に Ethernet ポートを追加します。
ports	LAN 上の構成済み Ethernet ポートを表示します。
remove	LAG から Ethernet ポートを削除します。

オプション

オプション	説明
-access-vlan	アクセス VLAN の ID を指定します。
-admin-rate	ネットワークトラフィックがサポートされるレートを指定します。レートは通常は 10G ビット/秒以下であるか、LAG でサポートされている最大値に自動ネゴシエーションされます。
-description	LAG を説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-detail	LAG の詳細情報 (使用可能な場合) を表示します。
-flow-control	ポートでフロー制御を有効にするか無効にするかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-igmp-snooping	ポートで IGMP スヌーピングを有効にするか無効にするかを指定します。 ■ true (デフォルト) ■ false
-lacp	LAG で LACP を有効にします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-lacp-enable	ポートが Oracle IB スイッチのものである場合、このオプションは空白のままにしてください。 LAG ポートのピアネットワークスイッチが LACP を使用中の場合は、LACP を有効にします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-mtu	MTU レート、つまりフラグメンテーションなしでサポートされる最大データパケットを指定します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-port-mode	ポートの VLAN モードを指定します。 ■ trunk ■ access (デフォルト)
-tag-native	トラフィックがネイティブ VLAN から発生する場合、ポートのトラフィックにタグを再設定するか、トラフィックが VLAN ID を保持するかを指定します。 ■ true

オプション	説明
	■ false (デフォルト)

例: LAG の構成

この例では、Division/6.1 という名前の既存の LAG にプロパティを設定する方法を示します。

```
[OFM] set ethernet-lag Division/6.1 -description=SouthernDivision -admin-rate=autoNegotiate -mtu=1500
-access-vlan=1 -flow-control=false -lacp-enable=false -port-mode=access -tag-native=false -igmp-
snooping=true
```

```
[OFM] show ethernet-lag ontario/6.1 -detail
```

```
-----
name           Division/6.1
state          up/down
port-count     1
vnics          0
description    SouthernDivision
admin-rate     autoNegotiate
capacity       0
mtu            1500
port-mode      access
access-vlan    1
tag-native     false
flow-control   false
igmp-snooping  true
lacp-enable    false
-----
1 record displayed
```

ethernet-port

show ethernet-port コマンドは、構成済みの Ethernet ポートのリストを表示するために使用します。

構文

```
show ethernet-port name -detail
```

ここで、*name* は構成済み Ethernet ポートの名前です。

mac-based-qos

`show mac-based-qos` コマンドは、MAC ベース QoS プロファイルのリストを表示するために使用します。

構文

```
show mac-based-qos name
```

ここで、*name* は MAC ベース QoS プロファイルの名前です。

network-cloud

ネットワーククラウドを作成する場合、1 つ以上の Ethernet ポートまたは LAG と、ほかのネットワーク特性を含めます。ネットワーククラウドを I/O テンプレートに関連付けると、ホストにデータネットワークへの接続方法が提供されます。

構文

```
add network-cloud name ethernet [-description=text] [-qos=network-cloud-QOS]  
[-trunk-mode={true|false}] [-access-vlan-id=vlan-ID] [-is-private={true|false}]
```

```
remove network-cloud name [-no-confirm]
```

```
set network-cloud name [-description=text] [-qos=network-cloud-QOS] [-trunk-  
mode={true|false}] [-access-vlan-id=vlan-ID] [-is-private={true|false}]
```

```
set network-cloud name add ethernet-lags port
```

```
set network-cloud name add ethernet-ports port
```

```
set network-cloud name remove ethernet-lags port [-no-confirm]
```

```
set network-cloud name remove ethernet-ports port [-no-confirm]
```

```
set network-cloud name ha-preference port preference
```

```
set network-cloud name mark-next-assigned port next-port-preference
```

```
show network-cloud name
```

```
show network-cloud name ethernet-ports-lags
```

```
show network-cloud name vnics
```

ここでは:

- *ethernet* は、ネットワーククラウドに追加する特定の Ethernet ポートまたは Ethernet LAG の名前を指定します。
- *name* はネットワーククラウドの名前を指定します。
- *next-port-preference* は、最初に選択したポートが使用可能でない場合の次のポートを指定します。
- *port* は、ネットワーククラウドに対して構成または削除する Ethernet ポートまたは LAG の名前を指定します。
- *preference* は、[HA](#) のプライマリ終端またはセカンダリ終端に割り当てるポートおよび LAG を指定します。

サブコマンド	説明
add ethernet-lags	ネットワーククラウドに Ethernet LAG を追加します。
add ethernet-ports	ネットワーククラウドに Ethernet ポートを追加します。
ethernet-ports-lags	ネットワーククラウド内のすべての構成済み Ethernet ポートおよび LAG を表示します。
ha-preference	ブリファレンスを割り当てる HA ポートを指定します。 ■ <i>none</i> – ブリファレンスなし。 ■ <i>primary</i> – この終端にプライマリ vNIC または vHBA を割り当てます。 ■ <i>secondary</i> – この終端にセカンダリ vNIC または vHBA を割り当てます。
mark-next-assigned	ポートおよび次に割り当てられるポートのブリファレンスを指定します。 ■ <i>0</i> – 次に割り当てられるポートまたは LAG としてマークします。 ■ <i>1</i> – 次に割り当てられるプライマリポートまたは LAG としてマークします。 ■ <i>2</i> – 次に割り当てられるセカンダリポートまたは LAG としてマークします。
remove ethernet-lags	ネットワーククラウドから Ethernet LAG を削除します。
remove ethernet-ports	ネットワーククラウドから Ethernet ポートを削除します。
vnics	ネットワーククラウド内のすべての構成済み vNIC を表示します。

オプション

オプション	説明
-description	ネットワーククラウドに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-qos	ネットワーククラウドにネットワーク QoS プロファイルを適用します。 ■ 100m_1g ■ 100m_250m ■ 10g_10g ■ 10m_100m ■ 10m_1g ■ 10m_50m ■ 1g_10g ■ 1m_10m ■ 250m_500m ■ 2g_10g ■ 3g_10g ■ 4g_10g ■ 500m_750m ■ 50m_100m ■ 5g_10g ■ 64k_1m ■ 6g_10g ■ 750m_1g ■ 7g_10g ■ 8g_10g ■ 9g_10g
-trunk-mode	ネットワーククラウドをトランクモードにするかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-access-vlan-id	このネットワーククラウドに接続されているすべての vNIC が同じ VLAN ID を持つようにするには、その VLAN ID 番号を入力します。 ネットワーククラウド上の VLAN のほかに、特定の Oracle Fabric Interconnect 上でサポートされる VLAN ID を「許可される VLAN 範囲」機能で制御できます。
-is-private	このネットワーククラウドに接続されているすべての vNIC をプライベート vNIC にするかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト) デフォルトでは、vNIC はパブリックです。

オプション	説明
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: ネットワーククラウドの追加

この例では、HRnwCloud1 という名前の新しいネットワーククラウドを示します。このクラウドは、QoS プロファイル 100m_1g に関連付けられ、trunk モードに設定され、1 というアクセス VLAN ID を持っています。

```
[0FM] add network-cloud HRnwCloud1 -qos=100m_1g -trunk-mode=true -access-vlan-id=1
```

例: ネットワーククラウドへの Ethernet ポートの追加

この例では、Cloud9 という名前のネットワーククラウドに Ethernet ポート iowa/4/2 を追加します。

```
[0FM] set network-cloud Cloud9 add ethernet-ports iowa/4/2
```

例: ネットワーククラウドへの HA プリファレンスの追加

これらの例では、ネットワーククラウド Cloud9 の HA プリファレンスを設定します。プライマリ Ethernet ポートは Oracle Fabric Interconnect montana のもの、セカンダリポートは Iowa のものを指定します。

```
[0FM] set network-cloud Cloud9 ha-preference montana/5/3 primary
```

```
[0FM] set network-cloud Cloud9 ha-preference iowa/4/2 secondary
```

例: ネットワーククラウド情報の表示

この例では、ネットワーククラウド Cloud9 の情報を表示します。

```
[0FM] show network-cloud Cloud9
-----
```

```

name          Cloud9
ports         1
lags          0
trunk-mode    false
qos
vnics         28
vnic-templates 0
is-private    false
access-vlan-id 1
allocation-policy roundrobin
description
-----
1 record displayed

```

例: Ethernet ポート情報の表示

この例では、ネットワーククラウド Cloud9 のポート montana/5/3 に関する Ethernet ポート情報を表示します。

```

[OFM] show network-cloud Cloud9 ethernet-ports-lags
-----
name          Cloud9
eth-port      montana/5/3
state         up/up
vnic-count    0
type          nwEthernet1GbPort
available-ingress-cir 1000000
available-egress-cir  1000000
description
-----
1 record displayed

```

例: ネットワーククラウドの削除

この例では、Oracle Fabric Manager 環境からネットワーククラウド Cloud9 を削除します。

```
[OFM] remove network-cloud Cloud9
```

例: ネットワーククラウドからの Ethernet ポートの削除

この例では、ネットワーククラウド Cloud9 から Ethernet ポート montana/5/3 を削除します。

```
[OFM] set network-cloud Cloud9 remove montana/5/3
```

network-qos

network-qos コマンドは、ネットワーク QoS プロファイルのリストを表示するために使用します。

構文

```
show network-qos name
```

ここで、*name* はネットワーク QoS プロファイルの名前です。

public-cloud

パブリッククラウドを作成する場合は、IB ファブリックにわたる高速接続を外部ネットワークに提供するために、1つ以上のファブリックデバイス、ほかのネットワーク特性、およびアップリンクを含めます。

構文

```
add public-cloud name uplink [-description=text] [-mtu=value] [-trunk-mode={true|false}] [-partition=partition-name]
```

```
remove public-cloud name [-no-confirm]
```

```
set public-cloud name [-description=text]
```

```
set public-cloud name up
```

```
set public-cloud name down
```

```
set public-cloud name add uplink uplink
```

```
set public-cloud name add allowed-vlan-range allowed-vlan-range
```

```
set public-cloud name remove uplink uplink [-no-confirm]
```

```
set public-cloud name remove allowed-vlan-range allowed-vlan-range [-no-confirm]
```

```

set public-cloud name ha-preference uplink preference

set public-cloud name mark-next-assigned uplink next-port-preference

show public-cloud name

show public-cloud name uplink

show public-cloud name allowed-vlan-ranges

show public-cloud name vnic

show public-cloud name vnic-template

```

ここでは:

- *preference* はパブリッククラウドの HA アップリンクです。
- *name* はパブリッククラウドの名前です。
- *next-port-preference* は次に優先されるポートです。
- *uplink* は、パブリッククラウドに割り当てる Ethernet ポートまたは Ethernet LAG です。
- *allowed-vlan-range* は、許可される VLAN 範囲の数値を指定します。範囲は同じポート上で重複できません。

サブコマンド	説明
up	パブリッククラウドを有効にします。
down	パブリッククラウドを無効にします。
add uplink	パブリッククラウドにアップリンクを追加します。
add allowed-vlan-range	パブリッククラウドに許可される VLAN 範囲を追加します。範囲は開始番号と終了番号で指定します。例: 1-100。
allowed-vlan-ranges	パブリッククラウドに許可される VLAN 範囲を表示します。
remove uplink	パブリッククラウドに関連付けられているアップリンクを削除します。
remove allowed-vlan-range	指定した VLAN 範囲をパブリッククラウドから削除します。
ha-preference	プリファレンスを割り当てる HA アップリンクを指定します。 ■ none – プリファレンスなし。 ■ primary – この終端にプライマリ vNIC または vHBA を割り当てます。 ■ secondary – この終端にセカンダリ vNIC または vHBA を割り当てます。
mark-next-assigned	アップリンクおよび次に割り当てられるポートのプリファレンスを指定します。 ■ 0 – これを、次に割り当てられるポート/LAG としてマークします

サブコマンド	説明
	■ 1 – これを、次に割り当てられるプライマリポート/LAG としてマークします ■ 2 – これを、次に割り当てられるセカンダリポート/LAG としてマークします
uplink	パブリッククラウドに関連付けられているアップリンクを <i>server/port/slot</i> の形式で表示します。
vnics	パブリッククラウドに関連付けられている vNIC を表示します。
vnics-template	パブリッククラウドに関連付けられている vNIC テンプレートを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	パブリッククラウドに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-mtu	パブリッククラウドに MTU 値を適用します。
-trunk-mode	パブリッククラウドを trunk モードにします。 ■ true – クラウドが複数の VLAN に対する VLAN タグ付きトラフィックを渡せるため、トラフィックの論理的な分離を実装できます。トランクモードを使用するときは、VLAN 範囲を割り当てる必要があります。 ■ false – デフォルト。
-partition	パブリッククラウドを特定のパーティションに制限します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: パブリッククラウドの追加

この例では、アップリンク *ontario/0/2* に接続された、*ad_server* という名前の新しいパブリッククラウドを追加します。

```
[OFM] add public-cloud ad_server ontario/0/2
```

例: パブリッククラウドの有効化

この例では、パブリッククラウド *eng_backup* を有効にします。

```
[OFM] set public-cloud eng_backup up
```

例: パブリッククラウドへのアップリンクの追加

この例では、パブリッククラウド `ad_server` にアップリンク `ovn85-49/0/2` を追加します。

```
[OFM] set public-cloud ad_server add uplink ovn85-49/0/2
```

例: パブリッククラウドへの許可される VLAN 範囲の追加

この例では、パブリッククラウド `ad_server` に VLAN 範囲 `1-150` を追加します。

```
[OFM] set public-cloud ad_server add allowed-vlan-range 1-150
```

例: パブリッククラウドからのアップリンクの削除

この例では、パブリッククラウド `ad_server` からアップリンク `ovn85-49/0/2` を削除します。

```
[OFM] set public-cloud ad_server remove uplink ovn85-49/0/2
```

例: パブリッククラウドの HA プリファレンスの設定

これらの例では、パブリッククラウド `ad_server` の HA プリファレンスを設定します。プライマリアップリンクはファブリックデバイス `Montana` のもの、セカンダリポートは `Iowa` のものを指定します。

```
[OFM] set public-cloud ad_server ha-preference montana/5/3 primary
```

```
[OFM] set public-cloud ad_server ha-preference iowa/4/2 secondary
```

例: パブリッククラウド情報の表示

この例では、パブリッククラウド `basicPublic` の情報を表示します。

```
[OFM] show public-cloud basicPublic
```

```
name                basicPublic
uplinks             2
state               up/down
mtu                 1500
partition           default
mode                true
allowed-vlan-ranges
vnics               1
vnic-templates      0
description
-----
1 record displayed
```

pvi-cloud

PVI クラウドを作成することにより、**IB** ファブリック上に東西トラフィック用の内部ネットワークを提供できます。PVI クラウドには少なくとも 1 つのファブリックデバイスが必要で、ほかのネットワーク特性も構成する必要があります。

構文

```
add pvi-cloud name fabric-device [-mtu=value] [-partition=partition-name]

remove pvi-cloud name [-no-confirm]

set pvi-cloud name [-description=text]

set pvi-cloud name down [-no-confirm]

set pvi-cloud name up

set pvi-cloud name add fabric-device

set pvi-cloud name remove fabric-device [-no-confirm]

show pvi-cloud name

show pvi-cloud name fabric-device

show pvi-cloud name vnics

show pvi-cloud name vnics-template
```

ここでは:

- *name* は PVI クラウドの名前です。

- *fabric-device* は特定のファブリックデバイスです。

サブコマンド	説明
add <i>fabric-device</i>	PVI クラウドにファブリックデバイスを追加します。
down	PVI クラウドを無効にします。
<i>fabric-device</i>	PVI クラウドに関連付けられているファブリックデバイスを表示します。
remove <i>fabric-device</i>	PVI クラウドに関連付けられているファブリックデバイスを削除します。
up	PVI クラウドを有効にします。
<i>vnics</i>	PVI クラウドに関連付けられている vNIC を表示します。
<i>vnics-template</i>	PVI クラウドに関連付けられている vNIC テンプレートを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	PVI クラウドに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-mtu	PVI クラウドに MTU 値を適用します。
-partition	PVI クラウドを特定のパーティションに制限します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: PVI クラウドの追加

この例では、eng_backup という名前の新しい PVI クラウドを追加します。このクラウドは、ファブリックデバイス ontario に接続され、その MTU は 4470 に設定されます。

```
[OFM] add pvi-cloud eng_backup ontario -mtu=4470
```

例: PVI クラウドへのファブリックデバイスの追加

この例では、eng_backup という名前の PVI クラウドにファブリックデバイス delaware を追加します。

```
[OFM] set pvi-cloud eng_backup add delaware
```

例: PVI クラウドの有効化

この例では、PVI クラウド eng_backup を有効にします。

```
[OFM] set pvi-cloud eng_backup up
```

例: PVI クラウドの無効化

この例では、PVI クラウド eng_backup を無効にします。

```
[OFM] set pvi-cloud eng_backup down
```

例: PVI クラウド情報の表示

この例では、PVI クラウド HR_pvi の情報を表示します。

```
[OFM] show pvi-cloud HR_pvi
name state network-id mtu partition vnics vnic-templates description
-----
HR_pvi up/up 1234 9000 0 0
HR_pvi up/up 4324 9000 0 0
2 records displayed
```

例: PVI クラウドからのファブリックデバイスの削除

この例では、PVI クラウド eng_backup からファブリックデバイス ontario を削除します。

```
[OFM] set pvi-cloud eng_backup remove ontario
```

san-qos

san-qos コマンドは、SAN [QoS](#) プロファイルを表示するために使用します。

構文

```
show san-qos name
```

ここで、*name* は SAN QoS プロファイルの名前です。

vnic

vnic コマンドは、サーバー上の **vNIC** を管理するために使用します。IB 接続は Oracle Fabric Interconnect とホストサーバーの間に存在し、Oracle vNIC ホストソフトウェアスタックがサポートされます。最大 24 個の IB ポートがサポートされます。

構文

```
add vnic name server-name network-cloud-name [-description=text] [-qos=QoS-profile] [-vlan-id=value] [-trunk-mode={true|false}] [-ha-mode={true|false}] [-auto-switchover={true|false}] [-ip-type=IP-address-type] [-ip-address=IP-address] [-ip-mask=IP-mask] [-mac-address=MAC-address] [-ha-mac-address=MAC-address] [-local-id=local-ID] [-checksum-offload={true|false}] [-community-name=community-name] [-iscsi-boot-capable={true|false}] [-pxe-boot-capable={true|false}] [-tso={true|false}] [-private={true|false}] [-port=port] [-ha-port=ha-port]
```

```
remove vnic name [-no-confirm]
```

```
set vnic name [-description=text] [-qos=QOS-profile] [-ip-type=IP-address-type] [-ip-address=IP-address] [-ip-mask=IP-mask] [-community-name=community-name] [-boot-capable={true|false}] [-iscsi-boot-capable={true|false}] [-pxe-boot-capable={true|false}] [-private=true/false]
```

```
set vnic name up
```

```
set vnic name down
```

```
set vnic name network-cloud cloud-name
```

```
set vnic name termination termination [-ha-termination=termination-port]
```

```
show vnic name [-detail]
```

ここでは:

- *cloud-name* は、vNIC に接続される新しいクラウドの名前です。
- *network-cloud-name* は、vNIC に接続されているネットワーククラウドの名前です。
- *server-name* は物理サーバーの名前です。
- *termination* は vNIC を更新して、その終端を別のポートまたは LAG に変更します。
- *name* は vNIC の名前です。

サブコマンド	説明
down	vNIC を無効にします。

サブコマンド	説明
network-cloud	vNIC を接続する新しいネットワーククラウドを指定します。
termination	vNIC の終端ポイントを定義します。 ■ ポート – slot/port の形式で表示します。 ■ LAG – slot.port の形式で表示します。 終端ポイントは 1 つしか許可されません。
up	vNIC を有効にします。

オプション

オプション	説明
-auto-switchover	自動スイッチオーバーを有効にします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-boot-capable	vNIC がブート対応かどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-community-name	vNIC が特定のコミュニティに属する場合は、コミュニティ名を定義します。
-checksum-offload	vNIC を終端させるポートではなく I/O モジュールに チェックサム タスクをモジュールが送信できるようにします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-description	vNIC に説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-ha-port	HA に使用するポート番号を指定します。
-ha-mac-address	HA vNIC のアドレスを指定します。
-ha-mode	vNIC が HA vNIC かどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-ha-termination	プライマリ終端とセカンダリ終端の両方に適用する必要がある、終端ポートまたは LAG を指定します。
-ip-address	そのネットワーク QoS プロファイルを使用している各 vNIC の管理 IP アドレスを指定します。デフォルトの IP アドレスは 0.0.0.0 です。
-ip-mask	そのネットワーク QoS プロファイルを使用している各 vNIC の管理ネットワークマスクを指定します。デフォルトの IP マスクは 255.255.255.255 です。
-iscsi-boot-capable	ブート情報を含む iSCSI ターゲットから vNIC がサーバーをブートするかどうかを指定します。 ■ true

オプション	説明
	■ false (デフォルト)
-ip-type	vNIC の IP アドレスの割り当てに使用するメソッドを指定します。 ■ dhcp – ネットワークデバイスは有効な IP アドレスを DHCP によって自動的に取得できます。 ■ HostManaged – ファブリックデバイスではなくホストが IP アドレスを割り当てます。これがデフォルトです。 ■ static – vNIC には静的 IP アドレスが割り当てられます。
local-id	vNIC をサポートするポートの MAC アドレス範囲を指定します。
-mac-address	そのネットワーク QoS プロファイルを使用している各 vNIC の MAC アドレスを指定します。MAC アドレスはユーザーが静的に割り当てるか、ファブリックデバイスの MAC アドレスプールから自動的に割り当てることができます。
-MTU-size	MTU の値を設定します。 ■ 2048: 2MB ■ 256: 256KB (デフォルト) ■ 512: 512KB ■ 1024: 1MB ■ default: 256KB
-port	vNIC のポート番号を定義します。
-private	vNIC へのアクセスをプライベート vNIC に制限する必要があるかどうかを指定します。 ■ true – セキュリティ強化および標準のパブリック vNIC からの分離を保証するための vNIC 間の切り替えに使用されます。 ■ false – vNIC が標準のパブリック vNIC であることを示します (デフォルト)。
-pxe-boot-capable	vNIC がホストされているサーバーのブート情報を含む PXE ブートサーバーから vNIC がサーバーをブートするかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-qos	vNIC に必要なネットワーク QoS プロファイルを指定します。プロファイルによって各 vNIC の帯域幅使用率のパラメータが定義されます。名前は CIR_PIR 形式です (単位は Mbps)。 ■ 100m_1g ■ 100m_250m ■ 10g_10g ■ 10m_100m ■ 10m_1g ■ 10m_50m ■ 1g_10g ■ 1m_10m ■ 250m_500m ■ 2g_10g ■ 3g_10g ■ 4g_10g ■ 500m_750m

オプション	説明
	■ 50m_100m ■ 5g_10g ■ 64k_1m ■ 6g_10g ■ 750m_1g ■ 7g_10g ■ 8g_10g ■ 9g_10g
-trunk-mode	パブリッククラウドをトランクモードにします。
	■ true ■ false (デフォルト)
-tso	vNIC で TCP セグメンテーションオフロードをサポートするかどうかを指定します。
	■ true ■ false (デフォルト)
-vlan-id	vNIC が VLAN に参加する場合、VLAN の ID を定義します。

例: 基本的な vNIC の構成

この例では、bering という名前のサーバーに vnic4 という名前の vNIC を追加し、この vNIC を cloud9 という名前のネットワーククラウドで終端させる方法を示します。

```
add vnic vnic4 bering cloud9
show vnic
-----
name.io-profile    vnic4.bering_example_company_com
net-cloud-name     cloud9
termination        cloud-9
ha-termination     cloud-9
state              up/resourceUnavailable
ip-address         0.0.0.0
ip-mask            255.255.255.255
ip-type            hostManaged
mac-address        00:13:97:23:44:1D(P), 00:13:27:02:0D:30(S)
qos
description
-----
1 records displayed
```

例: vNIC の削除

この例では、ネットワーククラウドから vNIC を削除する方法を示します。

```
remove vnic vnic4.bering_example_company_com -no-confirm
```

ストレージクラウドの構成

このトピックでは、CLI を使用してストレージクラウドと [vHBA](#) を管理する方法について説明します。ホストに I/O プロファイルが配備されている場合、ストレージクラウドではホストは vHBA を介してストレージネットワークに接続されます。

詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「[ストレージクラウドの管理](#)」を参照してください。

コマンド	リンク
add storage-cloud	65 ページの「storage-cloud」
remove storage-cloud	
set storage-cloud	
show storage-cloud	
show fc-port	68 ページの「fc-port」
add vhba	69 ページの「vhba」
remove vhba	
set vhba	
show vhba	

storage-cloud

storage-cloud コマンドは、ストレージクラウドのプロパティの制御および表示に使用します。ストレージクラウドを作成する場合、1つの [FC](#) ポート、およびその他の SAN 特性 (SAN [QoS](#) など) をストレージクラウドに割り当てます。ストレージクラウドの作成が完了したら、それを I/O テンプレートまたは I/O プロファイルを使ってホストにプッシュします。これはホストに対し、FC ポートや vHBA などの特性を持つ必要なストレージアクセスポイントを提供します。[73 ページの「I/O テンプレートの構成」](#) および [79 ページの「デフォルトゲートウェイおよび I/O プロファイルの構成」](#) を参照してください。

構文

```
add storage-cloud name fc-port [-description=text] [-qos=storage-cloud-QOS]
remove storage-cloud name [-no-confirm]
set storage-cloud name [-description=text] [-qos=storage-cloud-QOS]
set storage-cloud name add fc-ports port
set storage-cloud name ha-preference port preference
set storage-cloud name remove fc-ports port [-no-confirm]
set storage-cloud name mark-next-assigned port next-port-preference
show storage-cloud name
show storage-cloud name fc-ports
```

ここでは:

- *fc-port* は、ストレージクラウドに割り当てる FC ポートの番号です。
- *name* はストレージクラウドの名前です。
- *port* は構成済み FC ポートの番号です。
- *preference* は HA ポートの HA プリファレンスです。
- *next-port-preference* は、ストレージクラウドに次に割り当てられる FC ポートです。

サブコマンド	説明
add fc-ports	ストレージクラウドに FC ポートを追加します。
ha-preference	ストレージクラウドの HA ステータスを構成します。
fc-ports	FC ポートのポートステータスを表示します。
mark-next-assigned	次のポートのプリファレンスを指定します。 ■ Ethernet ポート ■ Ethernet LAG
remove fc-ports	ストレージクラウドの FC ポートを削除します。

オプション

オプション	説明
-description	ストレージクラウドに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。

オプション	説明
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-qos	ストレージクラウドの QoS プロファイル (オプション) を指定します。 ■ 125m_250m ■ 1g_2g ■ 250m_500m ■ 2g_4g ■ 4g_8g ■ 500m_1g ■ 50m_125m

例: ストレージクラウドの追加

この例では、EngSTcloudB という名前の新しいストレージクラウドを作成します。

```
[OFM] add storage-cloud EngSTcloudB
```

例: ストレージクラウドへのオプションの追加

この例では、ストレージクラウド EngSTcloudB に説明を追加し、そのストレージクラウドに QoS プロファイル 2g_8g を定義します。

```
[OFM] set storage-cloud EngSTcloudB -description="Engineering Storage Cloud B" -qos-2g_8g
```

例: ストレージクラウドへのポートの追加

この例では、Oracle Fabric Interconnect montana に FC ポート 6/2 を追加します。

```
[OFM] set storage-cloud EngSTcloudB add fc-ports montana/6/2
```

例: ストレージクラウドの HA ポートプリファレンスの設定

この例では、ストレージクラウド EngSTcloudB の HA ポートプリファレンスを設定します。プライマリ Ethernet ポートは Oracle Fabric Interconnect montana のもの、セカンダリポートは Iowa のものを指定します。

```
[OFM] set storage-cloud EngSTcloudB ha-preference montana/10/1 primary
[OFM] set storage-cloud EngSTcloudB ha-preference iowa/8/2 secondary
```

例: ストレージクラウドのプロパティの表示

この例は、EngSTcloudB に 2 つの FC ポートが定義され、割り当てポリシー roundrobin、および「Engineering Storage」という説明が適用されていることを示しています。

```
[OFM] show storage-cloud EngSTcloudB
-----
name                EngSTcloudB
ports               2
qos-qos=
lun-mask-reference
allocation-policy    roundrobin
description          Engineering Storage
-----
```

例: ストレージクラウドからの FC ポートの削除

この例では、ストレージクラウド EngSTcloudB から FC ポート montana/6/2 を削除します。

```
[OFM] set storage-cloud EngSTcloudB remove fc-ports montana/6/2
```

fc-port

fc-port コマンドは、FC ポートの属性を表示するために使用します。

構文

```
show fc-port port [-detail]
```

サブコマンド	説明
port	ストレージクラウドの FC ポートを表示します。

オプション

オプション	説明
-detail	FC ポートの詳細情報 (使用可能な場合) を表示します。

vhba

vhba コマンドは、[vHBA](#) の作成と管理に使用します。このコマンドは、サーバーの[サーバープロファイル](#)を作成して物理サーバーに割り当てる場合にも使用できます。

構文

```
add vhba name server-name storage-cloud-name [-description=text] [-qos=qos-profile]
[-ha-mode={true|false}] [-ha-port=ha-port] [-local-id=local-ID] [-mtu=MTU-size]
[-port=port-number] [-san-boot-capable={true|false}] [-wwnn=WWN-ID] [-wwnn-
ha=WWN-ha-ID]
```

```
remove vhba name [-no-confirm]
```

```
set vhba name [-description=text] [-qos=qos-profile]
```

```
set vhba name rescan
```

```
set vhba name storage-cloud cloud-name
```

```
set vhba name termination termination [-ha-termination=new-ha-termination-port]
```

```
show vhba name [-detail]
```

ここでは:

- *cloud-name* は、vHBA の新しいストレージクラウドです。
- *name* はストレージクラウドの名前です。
- *server-name* は物理サーバーの名前です。
- *storage-cloud-name* は、vHBA のストレージクラウドの名前です。
- *termination* は、vHBA の新しい終端ポートです。

サブコマンド	説明
rescan	vHBA の FC ターゲットをスキャンします。
storage-cloud	別のストレージクラウドで終端するように vHBA を更新します。

サブコマンド	説明
termination	vHBA を更新して、その終端を別のポートに変更します。

オプション

オプション	説明
-description	vHBA に説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-detail	vHBA の詳細情報 (使用可能な場合) を表示します。
-ha-mode	vHBA が HA かどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-ha-port	HA vHBA のポート番号を定義します。
-local-id	この vHBA の ID を定義します。1 - 32 を入力してください。各 ID は一意である必要があります。
-mtu	vHBA の MTU 値を設定します。 ■ 2048: 2MB ■ 256: 256KB (デフォルト) ■ 512: 512KB ■ 1024: 1MB ■ default: 256KB
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-port	vHBA のポート番号を定義します。
-qos	vHBA に SAN QoS プロファイルをバインドします。バインドに使用するには、SAN QoS プロファイルはすでに存在している必要があります。
-san-boot-capable	vHBA で SAN ブートを実行できるようにします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-wwnn-id	特定の WWNN を指定します。このオプションを使用すると、WWN アドレスの末尾の 12 ビットである WWNN 接尾辞を入力できます。WWN 接尾辞は、100 から FFF までの 12 ビットの 16 進数です。
-wwnn-ha	WWNN HA ID を指定します。

例: 基本的な vHBA の構成

この例では、サーバープロファイルを作成して物理サーバー接続にバインドし、FC カードと FC スロット/ポートを見つけ、vHBA を作成してサーバープロファイルにバインドする方法を示します。

```
[OFM] add vhba myvhba vhba84-26 S_Cloud2 -port=ontario/2/1
.....
Job finished. state: completed: Job completed successfully
```

例: vHBA 情報の表示

この例では、すべての vHBA のプロパティを表示する方法を示します。

```
[OFM] show vhba
-----
name          bbb/vhba84-26
sto-cloud-name discovered-storage-cloud
termination   ontario/2/1
state         up/up
wwnn          50:01:39:71:00:2B:51:01
wwpn          50:01:39:70:00:2B:51:01
qos
description
-----
1 record displayed
```

例: vHBA の削除

この例では、vHBA を削除する方法を示します。

```
[OFM] remove vhba vhba101.myserver -no-confirm
.....
Job finished. state: completed: Job completed successfully
```


I/O テンプレートの構成

これらのトピックでは、CLI を使用して I/O テンプレートを構成する方法について説明します。I/O テンプレートは、ネットワークおよびストレージの要件に対応する接続および仮想リソースを定義します。I/O テンプレートは、I/O 接続を必要とするサーバーに適用できます。

コマンド	リンク
<code>add io-template</code>	73 ページの「io-template」
<code>remove io-template</code>	
<code>set io-template</code>	
<code>show io-template</code>	

io-template

I/O テンプレートを制御および表示します。

構文

```
add io-template name [-description=text] [-default-gateway=default-gateway]
[-san-boot-profile=SAN-boot-profile] [-iscsi-boot-profile=iSCSI-boot-profile]
[-apply-template-name={true|false}]

remove io-template name [-no-confirm]

set io-template name add vhba vhba-name storage-cloud-name [-description=text]
[-san-boot-capable={true|false}] [-qos=qos-profile] [-ha-mode={true|false}]
[-user-wwn=user-wwn-ID]

set io-template name add vnic vnic-name network-cloud-name [-description=text]
[-iscsi-boot-capable={true|false}] [-pxe-boot-capable={true|false}]
[-qos=qos-profile] [-trunk-mode={true|false}] [-ip-type=IP-address-type] [-vlan-id=vlan-ID]
[-checksum-offload=checksum-offload] [-community-name=community-name]
```

```
[-ha-mode={true|false}] [-auto-switchover={true|false}] [-user-mac=user-mac-address] [-tso={true|false}] [-private={true|false}]
```

```
set io-template name remove vhba vhba-name [-no-confirm]
```

```
set io-template name remove vnic vnic-name [-no-confirm]
```

```
set io-template name set io-template [-description=text] [-default-gateway=default-gateway] [-san-boot-profile=SAN-boot-profile] [-iscsi-boot-profile=iSCSI-boot-profile] [-apply-template-name=template-name]
```

```
set io-template name set vnic vnic-name [-network-cloud-name=network-cloud-name] [-description=text] [-iscsi-boot-capable={true|false}] [-pxe-boot-capable={true|false}] [-qos=qos-profile] [-trunk-mode={true|false}] [-ip-type=IP-address-type] [-vlan-id=access-vlan-id] [-checksum-offload=checksum-offload] [-community-name=community-name] [-ha-mode={true|false}] [-auto-switchover={true|false}] [-user-mac=user-defined-mac-address] [-tso={true|false}] [-private={true|false}]
```

```
set io-template name set vhba vhba-name [-storage-cloud-name=storage-cloud-name] [-description=text] [-san-boot-capable={true|false}] [-qos=qos-profile] [-ha-mode={true|false}] [-user-wwn=user-wwn-id]
```

```
show io-template name
```

```
show io-template name vhbases
```

```
show io-template name vnics
```

```
show io-template name linked-io-profiles
```

ここでは:

- *name* は I/O テンプレートの名前です。
- *network-cloud-name* は、vNIC のネットワーククラウドの名前です。
- *storage-cloud-name* は、vHBA のストレージクラウドの名前です。
- *vhba-name* は vHBA の名前です。
- *vnic-name* は vNIC の名前です。

サブコマンド	説明
add vhba	I/O テンプレートに vHBA を追加します。
add vnic	I/O テンプレートに vNIC を追加します。
linked-io-profiles	特定の I/O テンプレートにリンクされている I/O プロファイルを表示します。
remove vhba	I/O テンプレートから vHBA を削除します。
remove vnic	I/O テンプレートから vNIC を削除します。
set io-template	I/O テンプレートの詳細を更新します。
set vhba	vHBA のプロパティを更新します。

サブコマンド	説明
set vnic	vNIC のプロパティを更新します。
vhbas	特定の I/O テンプレートの vHBA を表示します。
vnics	特定の I/O テンプレートの vNIC を表示します。

オプション

オプション	説明
-apply-template-name	I/O テンプレート名またはサーバー名を使用するよう指定します。 ■ true ■ false
-auto-switchover	自動スイッチオーバーを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-checksum-offload	vNIC を終端させるポートではなく、I/O モジュールに チェックサム タスクを送信できるかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-community-name	vNIC が特定のコミュニティに属する場合は、コミュニティ名を定義します。
-default-gateway	I/O テンプレートのデフォルト ゲートウェイ を指定します。ここでデフォルトゲートウェイを指定するには、(add default gateway コマンドを使用して) そのゲートウェイが Oracle Fabric Manager 内にすでに存在している必要があります。
-description	I/O テンプレートのオプションの説明を設定します。
-ha-mode	vNIC が HA vNIC かどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-ip-type	vNIC の IP アドレスの割り当てに使用するメソッドを指定します。 ■ dhcp – ネットワークデバイスは有効な IP アドレスを DHCP によって自動的に取得できます。 ■ HostManaged – ファブリックデバイスではなくホストが IP アドレスを割り当てます。これがデフォルトです。 ■ static – vNIC には静的 IP アドレスが割り当てられます。
-iscsi-boot-capable	vNIC で iSCSI ブートを実行できるかどうか指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-iscsi-boot-profile	vHBA が配備されているホストサーバーの iSCSI ブートを vHBA でサポートする場合に、使用する iSCSI ブートプロファイルを指定します。
-network-cloud-name	ネットワーククラウドの名前を定義します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

オプション	説明
-private	vNIC へのアクセスをプライベート vNIC に制限する必要があるかどうかを指定します。 ■ true – セキュリティ強化および標準のパブリック vNIC からの分離を保証するための vNIC 間の切り替えに使用されます。 ■ false – vNIC が標準のパブリック vNIC であることを示します (デフォルト)。
-pxe-boot-capable	vNIC で PXE ブートを実行できるかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-qos	vNIC に必要なネットワーク QoS プロファイルを指定します。プロファイルによって各 vNIC の帯域幅使用率のパラメータが定義されます。名前は CIR_PIR 形式です (単位は Mbps)。 ■ 100m_1g ■ 100m_250m ■ 10g_10g ■ 10m_100m ■ 10m_1g ■ 10m_50m ■ 1g_10g ■ 1m_10m ■ 250m_500m ■ 2g_10g ■ 3g_10g ■ 4g_10g ■ 500m_750m ■ 50m_100m ■ 5g_10g ■ 64k_1m ■ 6g_10g ■ 750m_1g ■ 7g_10g ■ 8g_10g ■ 9g_10g
-san-boot-capable	vHBA で SAN ブートを実行できるようにします。 ■ true ■ false (デフォルト)
-san-boot-profile	vHBA が配備されているホストサーバーの SAN ブートを vHBA でサポートする場合に、使用する SAN ブートプロファイルを指定します。
-storage-cloud-name	vHBA のストレージクラウドを指定します。
-trunk-mode	ネットワーククラウドをトランクモードにするかどうかを指定します。 ■ true ■ false (デフォルト)
-tso	vNIC で TCP セグメンテーションオフロード (TSO) をサポートするかどうかを指定します。

オプション	説明
	■ true ■ false (デフォルト)
-user-mac	ユーザー定義の MAC アドレスを指定します。
-user-wwn	ユーザー定義の WWN ID を指定します。
-vlan-id	アクセス VLAN の ID を指定します。

例: I/O テンプレートの作成

この例では、cloud9template という名前の新しい I/O テンプレートを作成し、説明を追加します。

```
[OFM] add io-template cloud9template -description="Template for engineering resources"
```

例: I/O テンプレートの更新

この例では、I/O テンプレート cloud9template を更新して、SB14 という名前の SAN ブートプロファイルを追加します。

```
[OFM] set io-template cloud9template set io-template -san-boot-profile=SB14
```

例: I/O テンプレートへのストレージリソースの追加

この例では、s_Cloud0vhba という vHBA および s_Cloud0 というストレージクラウドを I/O テンプレート cloud9template に追加します。

```
[OFM] set io-template cloud9template add vhba s_Cloud0vhba s_Cloud0
[OFM] show io-template cloud9template
```

```
-----
name                cloud9template
iscsiboot-name
sanboot-name
default-gateway
apply-templatename  true
vnics                1
vhbas                0
description          Template for engineering resources
-----
1 record displayed
```


デフォルトゲートウェイおよび I/O プロファイルの構成

これらのトピックでは、CLI を使用してデフォルトゲートウェイおよび I/O プロファイルを作成する方法について説明します。

- デフォルトゲートウェイ – 使用すると、ホストサーバーは宛先アドレスの不明なパケットをサーバーのローカルネットワークから転送できるようになります。デフォルトゲートウェイを構成する場合、ファブリックデバイスには、接続されているサーバーからデフォルトゲートウェイのプールが提供されます。
- I/O プロファイル – 特定のサーバーに必要な vNIC または vHBA の数を指定する接続ポリシーを提供します。I/O プロファイルには、Oracle Fabric Manager で管理されているサーバーの仮想 I/O リソースが定義されます。

コマンド	リンク
add default-gateway	79 ページの「default-gateway」
remove default-gateway	
set default-gateway	
show default-gateway	
add io-profile	81 ページの「io-profile」
remove io-profile	
set io-profile	
show io-profile	

default-gateway

default-gateway は、ホストサーバーが宛先アドレスの不明なパケットをサーバーのローカルネットワークから転送できるようにするために使用します。デフォルトゲートウェイを構成する場合、ファブリックデバイスには、接続されているサーバーからデフォルトゲートウェイのプールが提供されます。

構文

```
add default-gateway name ip-address [-dns-server=DNS-server] [-domain-name=domain-name] [-description=text]
```

```
remove default-gateway name [-no-confirm]
```

```
set default-gateway name [-ip-address=IP-address] [-dns-server=DNS-server] [-domain-name=domain-name] [-description=text]
```

```
show default-gateway name
```

ここでは:

- *name* はデフォルトゲートウェイの名前です。
- *ip-address* はデフォルトゲートウェイの IP アドレスです。

オプション

オプション	説明
-description	デフォルトゲートウェイを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-dns-server	デフォルトゲートウェイの DNS サーバー名を指定します。
-domain-name	デフォルトゲートウェイのドメイン名を指定します。
-ip-address	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: デフォルトゲートウェイの作成

この例では、IP アドレスを指定して **Central** という名前のデフォルトゲートウェイを作成し、**sales** というドメイン名を追加します。

```
[OFM] add default-gateway Central 10.1.1.112
[OFM] set default-gateway Central -domain-name=sales
[OFM] show default-gateway Central
```

```
-----
name           Central
status:        Default Gateway in sync on these directors: [South, North]
address        192.168.1.1
dns-address    11.11.11.11
domain-name    sales
iotemplates    0
iopfiles       0
description
```

```
-----
1 record displayed
```

io-profile

io-profile コマンドは、I/O プロファイルの作成、管理、および削除を行います。すでに物理サーバーに接続されている I/O プロファイルを変更する場合は、それらの変更をその物理サーバーにプッシュする必要があります。

構文

```
add io-profile name template [-fabric-device=device-name] [-numberOfIops=value]

remove io-profile name [-no-confirm]

set io-profile name connect physical-server [-iqn=iSCSI-IQN target] [-iqn-
ha=secondary-ISCST-IQN-target] [-wwpn=SAN-WWPN-target] [-wwpn-ha=secondary-SAN-WWPN-
target] [-explicit-mapping1=mapping1] [-explicit-mapping2=mapping2]

set io-profile name set convert-vnics vnic1 vnic2

set io-profile name disconnect [-no-confirm]

set io-profile name server-profile [-server-profile-name=server-profile-name]
up

set io-profile name server-profile [-server-profile-name=server-profile-name]
down

set io-profile name server-profile [-server-profile-name=server-profile-name]
reset

set io-profile name set io-profile [-description=text] [-default-
gateway=default-gateway] [-san-boot-profile=SAN-boot-profile] [-iscsi-boot-
profile=iSCSI-boot-profile]

show io-profile name

show io-profile name server-profiles

show io-profile name vnics

show io-profile name vhbases

ここでは:
```

- *name* は I/O プロファイルの名前です。
- *physical-server* は物理サーバーの名前です。
- *template* は、I/O プロファイルに関連付けられている I/O テンプレートの名前です。

サブコマンド	説明
connect	I/O プロファイルを物理サーバーに接続します。
convert-vnics	vNIC のペア (vnic1 と vnic2) を HA vNIC に変換します。
disconnect	I/O プロファイルを物理サーバーから切断します。
server-profile	サーバープロファイルの状態を制御します。 ■ up ■ down ■ reset
server-profiles	I/O プロファイルのサーバープロファイルを表示します。
set io-profile	I/O プロファイルを更新します。
update io-profile	I/O プロファイルの詳細を更新します。
vnics	I/O プロファイルに関連付けられている vNIC のリストを表示します。
vhbas	I/O プロファイルに関連付けられている vHBA のリストを表示します。
server-profile	I/O プロファイルに関連付けられているサーバープロファイルのリストを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	I/O プロファイルのオプションの説明を設定します。
-default-gateway	I/O プロファイルを使用しているサーバーのデフォルトゲートウェイを設定または変更します。
-explicit-mapping1	サーバープロファイルと HCA ポートの間に明示的なマッピング 1 を定義します。サポートされるマッピングは 2 つだけです。
-explicit-mapping2	サーバープロファイルと HCA ポートの間に明示的なマッピング 2 を定義します。サポートされるマッピングは 2 つだけです。
-fabric-device	I/O プロファイルに関連付けるファブリックデバイスの名前を指定します。複数のデバイスを区切るにはコンマを挿入してください。
-iqn	iSCSI IQN ターゲットを指定します。
-iqn-ha	セカンダリ終端の iSCSI IQN ターゲットを指定します (HA vNIC にのみ使用)。
-iscsi-boot-profile	I/O プロファイルの iSCSI ブートプロファイルを設定または変更します。iSCSI ブートプロファイルはすでに存在する必要があります。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

オプション	説明
-numberOfIops	I/O プロファイルの数を指定します。
-san-boot-profile	I/O プロファイルの SAN ブートプロファイルを設定または変更します。 SAN ブートプロファイルはすでに存在している必要があります。
-server-profile-name	I/O プロファイルに関連付けられているサーバープロファイルの名前を指定します。
-wwpn	SAN WWPN ターゲットを指定します。
-wwpn-ha	セカンダリ終端の SAN WWPN ターゲットを指定します (HA vHBA にのみ使用)。

例: I/O プロファイルの作成

この例では、montana という名前の新しい I/O プロファイルを I/O テンプレート cloud9template から作成します。

```
[OFM] add io-profile montana cloud9template
```

例: I/O プロファイルオプションの更新

この例では、サーバー montana の I/O プロファイルを更新して、SB14 という名前の SAN ブートプロファイルを追加します。

```
[OFM] set io-profile montana update io-profile -san-boot-profile=SB14
```

例: I/O プロファイルのサーバーへの接続

この例では、I/O プロファイル montana を物理サーバー montana1 に接続します。

```
[OFM] set io-profile montana connect montana1
```

例: I/O プロファイルの vNIC の表示

この例では、scissors という名前の I/O プロファイルに関連付けられているすべての vNIC を表示します。

```
[OFM] show io-profile scissors vnics
-----
parent.name    scissors-4c4c454400434e108059c3c04f4b4d31
name           eth6
net-cloud-name discovered-network-cloud
```

```
termination    arkansas/14/5
state          up/resourceUnavailable
ip-address     0.0.0.0
mac-address    00:13:97:02:50:69
is-ha          false
description
-----
parent.name    scissors-44454c4c4300104e8059c3c04f4b4d31
name           bug20568
net-cloud-name discovered-network-cloud
termination    texas/14/7
state          up/up
ip-address     0.0.0.0
mac-address    00:13:97:01:F0:28
is-ha          false
description
-----
parent.name    scissors-44454c4c4300104e8059c3c04f4b4d31
name           eth5
net-cloud-name discovered-network-cloud
termination    texas/14/7
state          up/up
ip-address     192.168.15.205
mac-address    00:13:97:01:F0:25
is-ha          false
description
-----
3 records displayed
```

例: I/O プロファイルの削除

この例では、Oracle Fabric Manager 環境から I/O プロファイル `scissors` を削除します。

```
[OFM] remove io-profile scissors
```

サーバーの構成

これらのトピックでは、CLI を使用してサーバーグループと [HA](#) パートナーを作成する方法、およびファブリックに物理サーバーを追加する方法について説明します。

- 物理サーバー – ファブリックに対してサーバーの追加と削除を行います。物理サーバーが I/O テンプレートにバインドされている場合、[vNIC](#) または [vHBA](#) を介して仮想接続されています。
- サーバーグループ – ネットワーク内にある個々の物理サーバーの論理グループを作成します。
- HA パートナー – HA パートナーの追加、削除、および表示を行います。

コマンド	リンク
set physical-server	85 ページの「physical-server」
show physical-server	
add server-group	87 ページの「server-group」
remove server-group	
set server-group	
show server-group	
system add ha-partner	88 ページの「system」
system remove ha-partner	
system show ha-partner	

physical-server

`physical-server` コマンドは、サーバーの追加と削除を行います。物理サーバーが I/O テンプレートにバインドされている場合、[vNIC](#) または [vHBA](#) を介して仮想接続されています。

```
set physical-server name apply-io-template io-template-name
```

```
set physical-server name disconnect [-no-confirm]
```

```
set physical-server name connect io-profile-name [-iqn=ISCSI-IQN-target] [-iqn-ha=secondary-ISCSI-IQN-target] [-wwpn=SAN-WWPN-target] [-wwpn-ha=secondary-SAN-WWPN-target]
```

```
set physical-server name convert-vnics vn1c1 vn1c2
```

```
show physical-server name [-detail]
```

```
show physical-server name server-groups
```

```
show physical-server name stats
```

```
show physical-server name vhbases
```

```
show physical-server name vnics
```

ここでは:

- *name* は、物理サーバーの名前を指定します。
- *io-profile-name* は、物理サーバーに適用する I/O プロファイルの名前を指定します。
- *io-template-name* は、物理サーバーに適用する I/O テンプレートの名前を指定します。

サブコマンド	説明
apply-io-template	I/O テンプレートを物理サーバーに適用します。
connect	物理サーバーを I/O プロファイルに接続します。I/O プロファイルには構成済みの vNIC および vHBA の定義が保持されていますが、実際にはその I/O プロファイルをサーバーに接続するまで、接続は提供されません。
convert-vnics	vNIC のペアを HA vNIC に変換します。
disconnect	物理サーバーをその I/O プロファイルから切断します。
server-groups	選択した物理サーバーが属しているサーバーグループの名前を表示します。
stats	物理サーバーに関するリアルタイム統計情報を表示します。
vhbas	物理サーバーに構成されている vHBA を表示します。
vnics	物理サーバーに構成されている vNIC を表示します。

オプション

オプション	説明
-detail	物理サーバーの詳細情報を表示します。

オプション	説明
-iqn	iSCSI IQN ターゲットを指定します。
-iqn-ha	セカンダリ終端の iSCSI IQN を指定します。このオプションは HA vNIC にのみ使用してください。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-wwpn	SAN WWPN ターゲットを指定します。
-wwpn-ha	セカンダリ終端の SAN WWPN ターゲットを指定します。このオプションは HA vHBA にのみ使用してください。

例: I/O プロファイルへのサーバーの接続

この例では、Country という名前の物理サーバーを Divisions という名前の I/O プロファイルに接続します。

```
[OFM] set physical-server us86-24 connect Divisions
[OFM] show physical-server Country
-----
name          us86-24
os            VMware/ESXi-6.0.0.ESX/x86_64
driver-version 2.9.1000/3.0.0
vnics         4
vhbas        2
bound         yes
state         up
template-name
chassis-ports delaware:ServerPort6, ontario:ServerPort21
-----
1 record displayed
```

server-group

server-group コマンドは、ネットワーク内にある個々のサーバーの論理グループを作成するために使用します。

構文

```
add server-group name [-description=text]

remove server-group name [-no-confirm]

set server-group name [-description=text]

set server-group name add server-name
```

```
set server-group name remove server-name [-no-confirm]
```

```
show server-group name
```

```
show server-group name servers
```

ここでは:

- *name* はサーバーグループの名前です。
- *server-name* は、サーバーグループに対して追加または削除する物理サーバーの名前です。

サブコマンド	説明
add	サーバーグループに物理サーバーを追加します。
remove	サーバーグループから物理サーバーを削除します。
servers	サーバーグループに属している物理サーバーのリストを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	サーバーグループを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

例: サーバーグループへのサーバーの追加

この例では、bering という名前の物理サーバーを HRserverGroup という名前のサーバーグループに追加します。

```
[OFM] set server-group HRserverGroup add bering
```

system

system コマンドは、HA パートナーの追加、削除、または表示に使用します。詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「[HA サーバーの管理](#)」を参照してください。

構文

```
system add ha-partner name [-password=text] [-description=text]
```

```
system remove ha-partner name [-no-confirm]
```

```
system show ha-partner name
```

ここで、*name* は HA パートナーの名前です。

サブコマンド	説明
add ha-partner	HA パートナーを作成します。
remove ha-partner	特定の HA パートナーを削除します。
show ha-partner	すべての構成済み HA パートナーを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	HA パートナーを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-password	HA パートナーのパスワードを指定します。

ブートプロファイルの構成

このトピックでは、CLI を使用して SAN および iSCSI ブートプロファイルを管理する方法について説明します。

コマンド	リンク
add san-boot-profile	91 ページの「san-boot-profile」
remove san-boot-profile	
set san-boot-profile	
show san-boot-profile	
add iscsi-boot-profile	93 ページの「iscsi-boot-profile」
remove iscsi-boot-profile	
set iscsi-boot-profile	
show iscsi-boot-profile	

san-boot-profile

san-boot-profile コマンドは、[vHBA](#) を介してアクセスされる SAN ディスクからサーバーまたは仮想マシンをブートするために使用します。ディスクは、ストレージディスクアレイ上のターゲット [WWPN](#) および LUN ID で識別されます。

構文

```
add san-boot-profile name [-description=text] [-mount-type=text] [-mount-device=mount-device] [-group-name=group-name] [-volume-name=volume-name]
```

```
remove san-boot-profile name [-no-confirm]
```

```
set san-boot-profile name [-description=text] [-mount-type=text] [-mount-device=mount-device] [-group-name=group-name] [-volume-name=volume-name]
```

```
show san-boot-profile name
```

ここで、*name* は SAN ブートプロファイルの名前です。

オプション

オプション	説明
-description	SAN ブートプロファイルに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-group-name	論理ボリュームマネージャー SAN ブートプロファイルを作成する場合、このオプションでは、SAN から SAN ブート情報 (kernel と initrd) を受信するサーバーのブートデバイスの名前を指定します。
-mount-type	マウントタイプを指定します。 ■ static – 静的。 ■ lvm – 論理ボリュームマネージャー。 ■ direct – 直接接続。
-mount-device	マウントタイプが direct の場合は、SAN から SAN ブート情報 (kernel と initrd) を受信するサーバーのブートデバイスの名前を指定します。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-volume-name	論理ボリュームマネージャー SAN ブートプロファイルを作成する場合、このオプションでは、SAN ブート情報が配置されるボリュームの名前を指定します。

例: SAN ブートプロファイルの作成

この例では、`sanboot_2` という名前の新しい論理ボリュームマネージャー SAN ブートプロファイルを作成します。SAN から SAN ブート情報を受信するサーバーのブートデバイスの名前は `VolGroup00` です。SAN ブート情報が配置されるボリュームの名前は `LogVol100` です。

```
[OFM] add san-boot-profile sanboot_2 -mount-type=lvm -group-name=VolGroup00 -volume-name=LogVol100
```

例: SAN ブートプロファイルの表示

この例では、Oracle Fabric Manager 環境に定義されているすべての SAN ブートプロファイルに関する情報を表示します。単一のプロファイルの場合は、`show san-boot-profile name` コマンドを使用します。

```
[OFM] show san-boot-profile
-----
name                sanboot_1
mount-type          lvm
group-name          VolGrop00
volume-name         LogVol00
mount-device
iocloud-reference
iotemplates         0
description
-----
name                sanboot_2
mount-type          lvm
group-name          VolGroup00
volume-name         LogVol00
mount-device
iocloud-reference
iotemplates         0
description
-----
name                sanboot_3
mount-type          static
group-name
volume-name
mount-device
iocloud-reference
iotemplates         0
description
-----
3 records displayed
```

例: SAN ブートプロファイルの削除

この例では、Oracle Fabric Manager 環境から SAN ブートプロファイル `sanboot_1` を削除します。

```
[OFM] remove san-boot-profile sanboot_1
```

iscsi-boot-profile

`iscsi-boot-profile` コマンドは、iSCSI ブートプロファイルの属性を構成および表示するために使用します。

構文

```
add iscsi-boot-profile name target-address [-target-portal-group=target-portal-group] [-protocol=protocol-ID] [-port=port-ID] [-description=text] [-mount-type=text] [-mount-device=mount-device] [-group-name=group-name] [-volume-name=volume-name]
```

```
remove iscsi-boot-profile name [-no-confirm]
```

```
set iscsi-boot-profile name [-description=text] [-target-address=target-address]  
[-target-portal-group=target-portal-group] [-protocol=protocol-ID] [-port=port-ID]  
[-mount-type=text] [-mount-device=mount-device] [-group-name=group-name]  
[-volume-name=volume-name]
```

```
show iscsi-boot-profile name
```

ここでは:

- *name* は iSCSI ブートプロファイルの名前です。
- *target-address* は、サーバーの iSCSI ブート情報を含むファイラまたはアレイの IP アドレスです。

オプション

オプション	説明
-description	iSCSI ブートプロファイルに説明テキストを適用します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-group-name	論理ボリュームマネージャー iSCSI ブートプロファイルを作成する場合、このオプションでは、サーバーの iSCSI ブート情報が配置されるボリュームを含むボリュームグループの名前を指定します。
-mount-device	直接接続 iSCSI ブートプロファイルを作成または変更する場合は、iSCSI ブート情報を受信するサーバーのブートデバイスの名前を指定します。
-mount-type	マウントタイプを指定します。 ■ static – 静的。 ■ lvm – 論理ボリュームマネージャー。 ■ direct – 直接接続。
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。
-port	サーバーとサーバーの iSCSI ブート情報の場所との iSCSI 通信をサポートするポート番号を指定します。このフィールドにはデフォルト値 3260 が設定されますが、通信ポート番号は変更できません。
-protocol	iSCSI 通信をサポートするプロトコルの番号を指定します。このフィールドにはデフォルト値 6 が設定されますが、通信プロトコル番号は変更できます。
-target-address	iSCSI ポータルグループの IP アドレスを指定します。iSCSI ストレージアレイによっては、このフィールドは不要場合があります。
-target-portal-group	サーバーの iSCSI ブート情報を含むファイラまたはアレイの IP アドレスグループを指定します。

オプション	説明
-volume-name	論理ボリュームマネージャー iSCSI ブートプロファイルを作成または変更する場合、このオプションでは、サーバーの iSCSI ブート情報が配置されるボリュームの名前を指定します。

例: iSCSI ブートプロファイルオプションの設定

この例では、iSCSI ブートプロファイル `iscsiboot_3` の IP アドレスを設定し、そのマウントタイプを `direct` として定義します。

```
[OFM] set iscsi-boot-profile iscsiboot_3 -target-address=172.16.1.2 mount-type=direct
```

例: iSCSI ブートプロファイルの表示

この例では、Oracle Fabric Manager 環境に定義されているすべての iSCSI ブートプロファイルに関する情報を表示します。

```
[OFM] show iscsi-boot-profile
```

```
-----
name                iscsiboot_1
target-address       192.168.8.108
target-portal-group
port                3260
protocol             6
mount-type           direct
group-name
volume-name
mount-device
iocloud-reference
iotemplates         0
description
-----
name                iscsiboot_2
target-address       1.1.2.4
target-portal-group
port                3260
protocol             6
mount-type           direct
group-name
volume-name
mount-device
iocloud-reference
iotemplates         0
description
-----
name                iscsiboot_3
target-address       172.16.1.2
target-portal-group
port                3260
protocol             6
mount-type           direct
group-name
volume-name
mount-device
```

```
iocloud-reference
iotemplates      0
description
-----
3 records displayed
```

例: iSCSI ブートプロファイルの削除

この例では、Oracle Fabric Manager 環境から iSCSI ブートプロファイル `iscsiboot_3` を削除します。

```
[OFM] remove iscsi-boot-profile iscsiboot_3
```

プラグインの追加

このトピックでは、CLI を使用してプラグインのインストール、構成、および管理を行う方法について説明します。プラグインによって追加機能が提供されます。

コマンド	リンク
<code>system add plugin</code>	system
<code>system remove plugin</code>	
<code>system show plugin</code>	
<code>system upgrade plugin</code>	

system

`system` コマンドは、プラグインの追加、削除、およびアップグレードに使用します。詳細は、[『Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド』の「プラグインの管理」](#)を参照してください。

構文

```
system add plugin name

system remove plugin name [-no-confirm]

system show plugin name

system upgrade plugin name
```

ここで、*name* はプラグインの名前です。

オプション

オプション	説明
-no-confirm	エンティティを削除または切断するときに確認をスキップします。

アラームの表示

このトピックでは、CLI を使用してアラームの表示と管理およびスケジュール済みジョブのステータス確認を行う手順について説明します。

コマンド	リンク
<code>show alarm</code>	99 ページの「alarm」
<code>show job-status</code>	100 ページの「job-status」
(system config-job-status を含む)	

alarm

`show alarm` コマンドは、アラームおよびアラーム履歴を表示するために使用します。Oracle Fabric Manager では、リアルタイムのシステムイベントとネットワーク管理に加え、ソフトウェアリブート間のアラーム履歴情報が追跡されます。アラームをクリアするには、Oracle Fabric Manager GUI を使用します。詳細は、『[Oracle Fabric Manager 5.0.0 管理ガイド](#)』の「アラームの表示およびクリア」を参照してください。

構文

`show alarm name history`

ここで、*name* はアラームの名前です。

サブコマンド	説明
<code>history</code>	特定のアラームに発生した変更に関する詳細な履歴情報を表示します。

例: アラームの表示およびフィルタリング

この例では、すべての重要度のアラームを表示したあとで PowerSupply-2 アラームの詳細を表示する方法を示します。

```
[OFM] show alarm
Possible completions:
PowerSupply-2           Alarm
basicVhba               Alarm
basicVnic               Alarm
basicVnic2              Alarm
ethernet                Alarm
fc                      Alarm
flat                   Alarm
flatB                  Alarm
m1                     Alarm
m12                    Alarm
m13                    Alarm
phys-con-10e000015afac1 Alarm
phys-con-123123123      Alarm
phys-con-139702f1110001 Alarm
phys-con-2c9030057b4dd  Alarm
phys-con-2c903f051000b  Alarm
process-apache2-0       Alarm
...
show alarm PowerSupply-2
-----
name           PowerSupply-2
director       ontario
severity       minor
type           equipment
cause          unplugged
time-created   2015.10.28.02.18.17.349
description    power supply unplugged
-----
1 record displayed
```

job-status

job-status コマンドは、最近のジョブおよび引き延ばし済みジョブの情報を表示するために使用します。複数のステップを持つ構成タスクまたは管理タスクを送信するたびに、ジョブが作成されます。ジョブは非同期です。ジョブステータスは Oracle サポートに連絡する際に役立つ場合があります。ジョブステータスを構成するには、system config-job-status コマンドを使用します。system コマンドの詳細については、[105 ページの「system」](#)を参照してください。

構文

```
system config-job-status prune-interval prune-jobs-older-than
```

```
show job-status name
```

```
show job-status name steps
```

```
show job-status name sub-jobs
```

ここでは:

- *name* はジョブの名前です。
- *prune-interval* は、指定の秒数より古いジョブを除外します。
- *prune-jobs-older-than* は、指定の時間数より古いジョブを除外します。

サブコマンド	説明
steps	特定のジョブに関連付けられているステップの詳細を表示します。
sub-jobs	特定のジョブに関連付けられているサブジョブの詳細を表示します。

例: スケジュール済みジョブのステータスの表示

この例では、RemovePartitions というジョブの各ステップに関する詳細情報を表示します。

```
[OFM] show job-status RemovePartitions 2016-03-30_19:41:49.178 steps
-----
name           JobAborted
job-detail      Aborted running job during startup
job-time-stamp  2016-03-31 10:37:34.339
last-update
state
detail-status   aborted

-----
name           RemovePartition
job-detail      Remove partition test pKey = 869
job-time-stamp  2016-03-30 19:41:51.682
last-update
state
detail-status   aborted
-----
2 records displayed
```


Oracle Fabric Manager の保守

このトピックでは、CLI を使用して Oracle Fabric Manager のデータおよび構成情報をバックアップする手順について説明します。

コマンド	リンク
add schedule	103 ページの「schedule」
remove schedule	
set schedule	
show schedule	
system backup-ofm-config	105 ページの「system」
system clean-up jobs	
system clean-offline	
system config-backup-locations	
system download-ofm-log-files	
system rescan	
system restore-ofm-config	
system version	

schedule

`schedule` コマンドは、スケジュール済みバックアップの作成、編集、および削除に使用します。

構文

```
add schedule ofm-schedule name maxNumBackups frequency [-enabled={true|false}] [-am-pm=am-pm] [-hours=hours] [-minutes=minutes] [-description=text] [-days=days] [-weeks=weeks]
```

```
add schedule fabric-device-schedule name fabric-device maxNumBackups frequency [-enabled={true|false}] [-am-pm=am-pm] [-hours=hours] [-minutes=minutes] [-description=text] [-days=days] [-weeks=weeks]
```

```
remove schedule ofm-schedule name [-no-confirm]
```

```
remove schedule fabric-device-schedule name [-no-confirm]
```

```
set schedule ofm-schedule name maxNumBackups frequency [-enabled={true|false}] [-am-pm=am-pm] [-hours=hours] [-minutes=minutes] [-description=text] [-days=days] [-weeks=weeks]
```

```
set schedule fabric-device-schedule name fabric-device maxNumBackups frequency [-enabled={true|false}] [-am-pm=am-pm] [-hours=hours] [-minutes=minutes] [-description=text] [-days=days] [-weeks=weeks]
```

```
show schedule ofm-schedule name
```

```
show schedule fabric-device-schedule name
```

ここでは:

- *fabric-device* は、バックアップされるファブリックデバイスの名前です。このフィールドは、Oracle Fabric Manager ホストのバックアップでは表示されません。
- *frequency* は、スケジュール済みバックアップの実行頻度を示します。
- *name* は、バックアップスケジュールに割り当てられた名前です。
- *maxNumBackups* は、スケジュールごとに許可されるバックアップの最大数です。バックアップの最大数に達した場合、もっとも古いバックアップが削除され、最新のものが保存されます。

サブコマンド	説明
<code>fabric-device-schedule</code>	ファブリックデバイスのバックアップスケジュールを作成します。
<code>ofm-schedule</code>	Oracle Fabric Manager のバックアップスケジュールを作成します。

オプション

オプション	説明
-am-pm	バックアップを午前に実行するか午後に行うかを指定します。
-days	各月でバックアップを実行する特定の日を定義します。
-description	バックアップスケジュールを説明する英数字の文字列 (オプション) を入力します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-enabled	スケジュール済みバックアップを有効にするかどうかを指定します。 ■ true ■ false
-hours	スケジュール済みバックアップを実行する時間を指定します。
-minutes	スケジュール済みバックアップを実行する時間を指定します。
-weeks	各週でバックアップを実行する特定の日を定義します。

例: 日次バックアップのスケジュール

この例では、delaware という名前のファブリックデバイスのバックアップを 15 日間、毎朝 9:30 にスケジュールする方法を示します。

```
[OFM] add schedule fabric-device-schedule AccountBackup delaware 15 daily -hours=9 -minutes=30
[OFM] show schedule fabric-device-schedule AccountBackup
-----
name                AccountBackup
fabric-device        delaware
enabled              true
schedule             At 9:30 every day
max-num-backups      15
description
-----
1 record displayed
```

system

system コマンドは、システム情報の表示および保守の実行に使用します。デフォルトでは、Oracle Fabric Manager ホスト構成は /opt/xsigo/xms/xms-backups ディレクトリにバックアップされ、ファブリックデバイス構成は /opt/xsigo/xms/director-backups ディレクトリにバックアップされます。ただし、別のバックアップ場所を指定することもできます。

構文

```
system backup-ofm-config name [-description=text]
```

```
system cleanup-jobs
```

```
system clean-offline name
```

```
system config-backup-locations ofm-backup-directory director-backup-directory
```

```
system download-ofm-log-files include-all [-include-backup={true|false}]
```

```
system rescan
```

```
system restore-ofm-config file-name
```

```
system version
```

ここでは:

- *director-backup-directory* は、ファブリックデバイスのバックアップディレクトリの名前です。
- *file-name* は、復元するファイルの名前です。
- *include-all* には、すべてのログファイルの名前が含まれます。
- *name* は、system backup-ofm-config コマンドではファイルの名前、system clean-offline コマンドではオフラインの物理サーバーの名前です。
- *ofm-backup-directory* は、Oracle Fabric Manager のバックアップディレクトリの名前です。

サブコマンド	説明
backup-ofm-config	既存の設定、仮想リソース、およびその他すべての構成済み機能のバックアップファイルを作成します。
clean-offline	物理サーバーのオフラインクリーンアップを実行します。
cleanup-jobs	完了したジョブを削除します。
config-backup-locations	バックアップを保存するディレクトリを指定します。絶対パスか、Oracle Fabric Manager ホームディレクトリからの相対パスを入力してください。
download-ofm-log-files	Oracle Fabric Manager のログファイルをダウンロードします。 ■ all – すべてのログファイルをダウンロードします。 ■ recent-only – 最近のログファイルのみダウンロードします。
rescan	ファブリックをスキャンして新しいサーバーを検出し、古いサーバーを削除します。
restore-ofm-config	保存済みの構成ファイルを現在の場所から新しい xms-backups ディレクトリに復元します。

サブコマンド	説明
show system version	インストールされている Oracle Fabric Manager ソフトウェアのバージョンを表示します。

オプション

オプション	説明
-description	作成するバックアップを説明する英数字の文字列を指定します。複数の語をスペースで区切って指定する場合は、引用符で囲む必要があります。
-include-backup	Oracle Fabric Manager のログファイルをダウンロードするときにバックアップを含めるかどうかを決定します。 ■ true ■ false

例: Oracle Fabric Manager のバックアップ

この例では、バックアップを格納するディレクトリを決定します。Oracle Fabric Manager のバックアップは /xsigo ディレクトリに格納され、ファブリックデバイスのバックアップは /xsigo/xms ディレクトリに格納されます。Backup04 ファイルには、既存の設定、仮想リソース、およびその他すべての構成情報が保存されます。

```
[OFM] system config-backup-locations /xsigo /xsigo/xms
[OFM] system backup-ofm-config Backup04
```


用語集

A

AD Active Directory。Microsoft による **LDAP** ディレクトリサービスの実装であり、主に Windows 環境で使用されます。AD は、Windows ベースのコンピュータ向けに、集中管理された認証/承認サービスを提供します。管理者は AD を使用することで、組織に対するポリシーの割り当て、ソフトウェアの配備、および重要な更新の適用も行えます。

C

チェックサム 何らかの大きいデータの機能の 1 つである小さい固定長のデータ。TCP パケットが送信される前に、チェックサムが生成され、パケットとともに送信されます。受信側は同じアルゴリズムを実行し、同じチェックサムが生成されるのを確認して、確実に破損が生じないようにします。

CHAP RADIUS サーバーのチャレンジハンドシェイク認証プロトコル。CHAP はユーザーのパスワードと計算を組み合わせ、それを RADIUS のチャレンジを受けたユーザーが入力した情報と比較します。CHAP は **PAP** よりセキュアな認証プロトコルです。

CIR コミット済み情報レート (Committed Information Rate)。これは、安定したトラフィックに保証される帯域幅の量です。

CLI Oracle Fabric Manager のコマンド行インタフェース。(この CLI は Oracle Fabric Manager GUI とは別のものです。)

D

ドメイン リソースの論理グループ。

DHCP Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト構成プロトコル)。DHCP を使用すると、ネットワークデバイスは有効な IP アドレスをサーバーから自動的に取得できます。

F

- ファブリック** [Oracle EDR InfiniBand ファブリック](#)。ネットワーク通信、ストレージ通信、およびプロセス間通信用の 100G ビットの集約型ファブリック。
- FC** Fibre Channel (ファイバチャネル)。主にストレージシステムに対して使用されるデータ転送テクノロジー。

G

- ゲートウェイ** IB ファブリックとデータセンター LAN を接続します。Ethernet ゲートウェイは、ネットワークインタフェースカードのコレクションを Ethernet LAN に提供します。
- G バイト** ギガバイトの省略形。1G バイトは約 1000M バイトです。
- GRH** グローバルルーティングヘッダー。
- GUI** Oracle Fabric Manager 5.0.0 のグラフィカルユーザーインターフェース。

H

- HA** 高可用性 (High Availability)。
- HA パートナー** 複数の Oracle Fabric Manager サーバーが相互に関連付けられ、アクティブ/パッシブの役割で動作するシステムが提供されます。1 台のアクティブ Oracle Fabric Manager サーバーと 1 台のパッシブ Oracle Fabric Manager サーバーをまとめて HA パートナーと呼びます。
- HCA** Host Channel Adapter (ホストチャネルアダプタ)。IB テクノロジーに基づくネットワーク Fabric Interconnect であり、プロセッサおよび I/O デバイスの間のデータ伝送を提供します。

I

- IB** InfiniBand。超高性能コンピューティングに使用される高帯域幅のメッセージングテクノロジー。
- IMS** Identity Management System (アイデンティティ管理システム)。
- IPoIB** IP over InfiniBand。

K

Kerberos 認証プロトコルです。

L

LACP Link Aggregation Control Protocol (リンクアグリゲーション制御プロトコル)。リンクアグリゲーションを管理します。

LAG Link Aggregation Group (リンクアグリゲーショングループ)。

LDAP Lightweight Directory Access Protocol (軽量ディレクトリアクセスプロトコル)。TCP/IP 経由で動作するディレクトリサービスに対してクエリーや変更を行うためのアプリケーションプロトコルです。クライアントは、LDAP サーバー (デフォルトでは TCP ポート 389) に接続することによって LDAP セッションを開始します。次に、クライアントは操作要求をサーバーに送信し、今度はサーバーが応答を送信します。

M

MTU Maximum Transmission Unit (最大転送単位)。MTU は、ネットワークで送信できる最大物理パケットサイズ (バイト数) です。MTU 値は Ethernet ポートにのみ適用され、I/O ポートの MTU は隣接するスイッチの MTU と一致する必要があります。

O

OpenSM Oracle Fabric Interconnect 上で動作するデフォルトのサブネットマネージャー。

Oracle EDR InfiniBand ファブリック Oracle クラウドネットワークインフラストラクチャーの構築および管理に使用されるファブリック。

Oracle ILOM Oracle Integrated Lights Out Manager。IPMI プロトコルと I(2)C バスを使用して、シャーシのハードウェアコンポーネントをモニターおよび制御するインタフェース。

P

PAP RADIUS サーバーのパスワード認証プロトコル。簡易パスワード認証です。このタイプのプロトコルは [CHAP](#) より安全性が低くなります。

PVI Private Virtual Interconnect (プライベート仮想インターコネクト)。スイッチをファブリックに接続し、その Ethernet 接続を管理します。

QP

QoS Quality of Service (サービス品質)。

R

役割 ユーザーに割り当てることができる 5 つの決まった権限レベル (operators、administrators、storage など) の 1 つ。

RADIUS Remote Authentication Dial In User Service (リモート認証ダイヤルインユーザーサービス)。ネットワークリソースへのアクセスを制御するための認証、承認、およびアカウントリングプロトコルです。RADIUS は、モデム、DSL、無線、VPN などの一連のアクセステクノロジーにわたってインターネットや内部ネットワークへのアクセスを管理する、ISP や企業でよく使用されます。

RPM RPM パッケージマネージャー。

S

サーバープロファイル IB ポート経由で単一の物理サーバーに割り当てられるサーバー I/O 構成の 1 つのインスタンス。

SDN Software Defined Network。Oracle SDN Controller は、仮想マシンおよびサーバーをデータセンター内のほかのリソースに接続します。

SM Embedded Subnet Manager (組み込みサブネットマネージャー)。SM グループは、IB サブネット内のスイッチングおよびパステーブルを管理およびモニターします。サブネット上に複数の SM が存在する場合は、選択アルゴリズムによって 1 つの SM がマスター SM になります。残りの SM はスタンバイ SM になります。サブネットごとにマスター SM は 1 つのみです。

SNMP Simple Network Management Protocol (簡易ネットワーク管理プロトコル)。スイッチをリモートでモニターおよび制御するためのマシンインタフェース。

T

TCA Target Channel Adapter (ターゲットチャネルアダプタ)。

TSO TCP Segmentation Offload (TCP セグメンテーションオフロード)。ラージセグメンテーションオフロード (LSO) と呼ばれます。

U

ユーザー 人を内部的または外部的に表現したもの。ユーザーはローカルにも [LDAP](#) 経由でも存在します。デフォルトでは、`admin` ユーザーはローカルに作成されます。

V

vHBA Virtual Host Bus Adaptor (仮想ホストバスアダプタ)。SAN ファブリックで使用するファイバチャネルネットワークインタフェースカード。

VLAN Virtual Local Area Network (仮想ローカルエリアネットワーク)。物理ネットワーク内に作成されるプライベートで独立した論理ネットワーク。VLAN は通常の LAN のように動作しますが、接続されたデバイスが同じネットワークセグメントに物理的に接続されている必要はありません。

vNIC Virtual Network Interface Card (仮想ネットワークインタフェースカード)。物理 NIC なしで提供される Ethernet インタフェース。

W

WWNN World Wide Node Name。

WWPN World Wide Port Name。

索引

あ

アラーム、表示, 99

か

概要, 13

仮想ホストバスアダプタ

 vHBA を参照, 65

疑問符でヘルプを表示, 13

ゲートウェイ, 79

 構成, 79

 削除, 79

 追加, 80

コマンド

add default-gateway, 79
add domain-group-mapping, 18
add ethernet-lag, 46
add fabric-interconnect, 25
add io-profile, 81
add io-template, 73
add iscsi-boot-profile, 93
add network-cloud, 49
add oracle-infiniband-switch, 33
add partition, 40
add public-cloud, 54
add pvi-cloud, 58
add resource-domain, 19
add role-group-mapping, 22
add san-boot-profile, 91
add schedule, 103
add sdn-controller, 37
add server-group, 87
add sm-group, 42
add storage-cloud, 65
add user-role, 23
remove default-gateway, 79

remove domain-group-mapping, 18
remove ethernet-lag, 46
remove fabric-interconnect, 25
remove io-profile, 81
remove io-template, 73
remove iscsi-boot-profile, 93
remove network-cloud, 49
remove oracle-infiniband-switch, 33
remove partition, 40
remove public-cloud, 54
remove pvi-cloud, 58
remove resource-domain, 19
remove san-boot-profile, 91
remove schedule, 103
remove sdn-controller, 37
remove server-group, 87
remove sm-group, 42
remove storage-cloud, 65
remove user-role, 23
remove vhba, 69
remove vnic, 61
set default-gateway, 79
set domain-group-mapping, 18
set ethernet-lag, 46
set fabric-interconnect, 25
set io-profile, 81
set io-template, 73
set iscsi-boot-profile, 93
set network-cloud, 49
set oracle-infiniband-switch, 33
set partition, 40
set physical-server, 85
set public-cloud, 54
set pvi-cloud, 58
set resource-domain, 19
set san-boot-profile, 91

set schedule, 103
set sdn-controller, 37
set server-group, 87
set sm-group, 42
set storage-cloud, 65
set user-role, 23
set vhba, 69
set vnic, 61
show alarm, 99
show default-gateway, 79
show domain-group-mapping, 18
show ethernet-lag, 46
show ethernet-port, 48
show fabric-interconnect, 25
show fc-port, 68
show io-profile, 81
show io-template, 73
show iscsi-boot-profile, 93
show job-status, 100
show logical network, 39
show mac-based-qos, 49
show network-cloud, 49
show network-qos, 54
show oracle-infiniband-switch, 33
show partition, 40
show physical-server, 85
show plugin, 105
show public-cloud, 54
show pvi-cloud, 58
show resource-domain, 19
show san-boot-profile, 91
show san-qos, 60
show schedule, 103
show sdn-controller, 37
show server-group, 87
show sm-group, 42
show storage-cloud, 65
show user-role, 23
show vhba, 69
show vnic, 61, 61
system-backup-ofm-config, 105
system add ha-partner, 88
system add plugin, 97
system clean-offline, 105
system cleanup-jobs, 105
system config-backup-locations, 105

system download-ofm-log-files, 105
system remove ha-partner, 88
system remove plugin, 97
system rescan, 105
system restore-ofm-config, 105
system show ha-partner, 88
system show plugin, 97
system upgrade plugin, 97
system version, 105
コマンドのヘルプ, 13
コマンド履歴, 14

さ

サーバー

構成, 85
サーバーグループの構成, 87
サーバーグループの削除, 87
サーバーグループの追加, 88
サブネットマネージャー 参照 SM グループ
出力のリダイレクト, 14
ジョブステータス、表示, 100
スイッチ、構成, 33
スケジュール、構成, 103
ストレージクラウド
構成, 65, 66
削除, 66

た

ドメイン

グループマッピング, 18
構成, 19
作成, 19

な

ネットワーククラウド

構成, 49
削除, 50
追加, 50
ネットワーク QoS プロファイル, 54

は

パーティション, 39

構成, 40
 削除, 40
 追加, 42
 バックアップ、構成, 105
 パブリッククラウド
 構成, 54
 削除, 55
 追加, 56
 ブートプロファイル
 iSCSI ブートプロファイル, 93
 SAN ブートプロファイル, 91
 構成, 91
 物理サーバー、構成, 85
 プラグイン
 構成, 97
 削除, 98
 追加, 97
 保守タスク, 103
 ホストバスアダプタ
 vHBA を参照, 65

や

役割、構成, 17
 ユーザー、構成, 17

ら

リソースドメイン 参照 ドメイン
 例

Fabric Interconnect の追加, 32
 I/O テンプレートの更新, 77
 I/O テンプレートの作成, 77
 I/O テンプレートへのストレージリソースの追加, 77
 I/O プロファイルの vNIC の表示, 83
 I/O プロファイルの更新, 83
 I/O プロファイルのサーバーへの接続, 83
 I/O プロファイルの削除, 84
 I/O プロファイルの作成, 83
 I/O プロファイルへの物理サーバーの接続, 87
 IB スイッチの追加, 36
 iSCSI ブートプロファイルの削除, 96
 iSCSI ブートプロファイルの作成, 95
 iSCSI ブートプロファイルの表示, 95
 LAG の構成, 48

PVI クラウドからのデバイスの削除, 60
 PVI クラウド情報の表示, 60
 PVI クラウドの追加, 59
 PVI クラウドの無効化, 60
 PVI クラウドの有効化, 60
 PVI クラウドへのデバイスの追加, 59
 SAN ブートプロファイルの削除, 93
 SAN ブートプロファイルの作成, 92
 SAN ブートプロファイルの表示, 92
 SM グループの作成, 44
 vHBA の構成, 70
 vHBA の削除, 71
 vHBA のプロパティの表示, 71
 vNIC の削除, 64
 アラームの表示, 100
 基本的な vNIC の作成, 64
 サーバグループへのサーバーの追加, 88
 スケジュール済みジョブのステータスの表示, 101
 ストレージクラウドからの FC ポートの削除, 68
 ストレージクラウドの HA ポートプリファレンスの構成, 67, 67
 ストレージクラウドの追加, 67
 ストレージクラウドのプロパティの表示, 68
 ストレージクラウドへのポートの追加, 67
 デフォルトゲートウェイの追加, 80
 ドメインの作成, 21
 日次バックアップのスケジュール, 105
 ネットワーククラウドからの Ethernet ポートの削除, 53
 ネットワーククラウド情報の表示, 52
 ネットワーククラウドの Ethernet ポート情報の表示, 53
 ネットワーククラウドの削除, 53
 ネットワーククラウドの追加, 52
 ネットワーククラウドへの Ethernet ポートの追加, 52
 ネットワーククラウドへの HA プリファレンスの追加, 52
 パーティションの追加, 42
 バックアップの作成, 107
 パブリッククラウドからのアップリンクの削除, 57
 パブリッククラウド情報の表示, 57

パブリッククラウドの HA プリファレンスの設定, 57
パブリッククラウドの追加, 56
パブリッククラウドの有効化, 56
パブリッククラウドへのアップリンクの追加, 57
パブリッククラウドへの許可される VLAN 範囲の追加, 57
役割グループマッピングの追加, 23
ユーザーに割り当てられた役割の変更, 24
ログイン, 14
論理ネットワーク、表示, 39

わ

ワイルドカード, 14

A

AD サーバー
構成, 25
プロパティ, 28
add default-gateway, 79
add domain-group-mapping, 18
add ethernet-lag, 46
add fabric-interconnect, 25
add io-profile, 81
add io-template, 73
add iscsi-boot-profile, 93
add network-cloud, 49
add oracle-infiniband-switch, 33
add partition, 40
add public-cloud, 54
add pvi-cloud, 58
add resource-domain, 19
add role-group-mapping, 22
add san-boot-profile, 91
add schedule, 103
add sdn-controller, 37
add server-group, 87
add sm-group, 42
add storage-cloud, 65
add user-role, 23
add vhba, 69
add vnic, 61

C

CLI の概要, 13
commands
add vhba, 69

E

Ethernet LAG 参照 LAG
Ethernet ポート、表示, 48

F

Fabric Interconnect
構成, 25
追加, 32
FC ポート、表示, 68

H

HA パートナー、構成, 88

I

I/O テンプレート, 73
構成, 73
追加, 77
I/O プロファイル, 79
構成, 81
追加, 81, 83
iSCSI ブートプロファイル
構成, 93
追加, 93

L

LAG、構成, 46

M

MAC ベース QoS, 49

P

PVI クラウド
構成, 58

削除, 58
追加, 59

R

RADIUS サーバー

構成, 25
プロパティ, 28
remove default-gateway, 79
remove domain-group-mapping, 18
remove ethernet-lag, 46
remove fabric-interconnect, 25
remove io-profile, 81
remove io-template, 73
remove iscsi-boot-profile, 93
remove network-cloud, 49
remove oracle-infiniband-switch, 33
remove partition, 40
remove public-cloud, 54
remove pvi-cloud, 58
remove resource-domain, 19
remove san-boot-profile, 91
remove schedule, 103
remove sdn-controller, 37
remove server-group, 87
remove sm-group, 42
remove storage-cloud, 65
remove user-role, 23
remove vhba, 69
remove vnic, 61

S

SAN QoS, 60

SAN ブートプロファイル

構成, 91
追加, 92
表示, 92
SDN コントローラ
構成, 37
削除, 37
追加, 37

set default-gateway, 79
set domain-group-mapping, 18
set ethernet-lag, 46
set fabric-interconnect, 25

set io-profile, 81
set io-template, 73
set iscsi-boot-profile, 93
set network-cloud, 49
set oracle-infiniband-switch, 33
set partition, 40
set physical-server, 85
set public-cloud, 54
set pvi-cloud, 58
set resource-domain, 19
set san-boot-profile, 91
set schedule, 103
set sdn-controller, 37
set server-group, 87
set sm-group, 42
set storage-cloud, 65
set user-role, 23
set vhba, 69
set vnic, 61
show alarm, 99
show default-gateway, 79
show domain-group-mapping, 18
show ethernet-lag, 46
show ethernet-port, 48
show fabric-interconnect, 25
show fc-port, 68
show io-profile, 81
show io-template, 73
show iscsi-boot-profile, 93
show job-status, 100
show logical-network, 39
show mac-based-qos, 49
show network-cloud, 49
show network-qos, 54
show oracle-infiniband-switch, 33
show partition, 40
show physical-server, 85
show plugin, 105
show public-cloud, 54
show pvi-cloud, 58
show resource-domain, 19
show san-boot-profile, 91
show san-qos, 60
show schedule, 103
show sdn-controller, 37
show server-group, 87

- show sm-group, 42
- show storage-cloud, 65
- show user-role, 23
- show vhba, 69
- show vnic, 61
- SM キー, 42
- SM グループ, 39
 - 構成, 42
- SNMP、構成, 25
- system-backup-ofm-config, 105
- system add ha-partner, 88
- system add plugin, 97
- system clean-offline, 105
- system cleanup-jobs, 105
- system config-backup-locations, 105
- system download-ofm-log-files, 105
- system remove ha-partner, 88
- system remove plugin, 97
- system rescan, 105
- system restore-ofm-config, 105
- system show ha-partner, 88
- system show plugin, 97
- system upgrade plugin, 97
- system version, 105

V

- vHBA, 65
 - 構成, 69
- vNIC、構成, 61